No.0582-0981C

スーパーバリケード

SQ7000/7500

〈取扱説明書・保証書〉

目 次

ページ

ページ

はじめに

このたびは、カーセキュリティシステム・スーパーバリケードSQ7000/7500をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、SQ7000/7500（以下本品という）をご使用頂くためのガイドブックです。
この製品は、車両盗難や車上荒らしから愛車を守るカーセキュリティシステムです。
この製品を正しく安全にご使用頂くために、この取扱説明書をよくお読みになり、内容を理解された上で実際にご使用ください。この取扱説明書はお読みになった後も、車検証入れなどすぐに取出せる場所に保管し、ご使用中にわからないことや具合の悪いことがおきたとき、お役立てください。
また、本品を譲られる場合は、次に使用される方に本書も併せてお渡しください。尚、誤った取付、使用による事故、破損などの責任は一切負いかねます。

※本品使用中に、万一取付車に盗難等の被害が発生しても、当社補償は一切ありません。

注意事項の定義

この取扱説明書の注意事項は、そのレベル、内容ごとにマークを設けています。
各々の定義（意味）を充分に理解された上で、お取扱いください。

⚠危険	重大事故が起こる状況のもの
⚠警告	人体に対し、危険が生じる恐れのあるもの
⚠注意	物品を破損、故障させたり、セキュリティ能力の低下につながるもの
⚠禁止	法律に違反する恐れのあるもの
☞参考	取付け、取扱において知っていると有益な情報

SQ7000/7500の特長

■常時アンサーバック機能

愛車の状態を手元のリモコンで監視。万一の異常発生時には8音色120dBサイレンを鳴らすと共に無線でリモコンに通報を行ないます。

※通信可能範囲（当社実験値）・・・見通し最大3,000m
※通信可能範囲は周囲の環境や取付場所・使用状況などによって大きく変化します。

■セキュリティレベル選択（サイレントモード搭載）

使用環境に応じた5つのセキュリティレベルがリモコンで簡単に切替できます。

・NORMAL・・・全てのセンサーを使用する標準設定モード。
・SILENT・・・近所迷惑を防止するため、8音色120dBサイレンを鳴らさずにリモコンへの通報だけで監視を行なうモード。
・ROAD・・・往来の激しい道路付近など、傾斜センサー・ドアセンサー・イグニッションONセンサーで監視を行なうモード。
・TOWER・・・立体駐車場など、ドアセンサー・イグニッションONセンサーで監視を行なう場合のモード
・VALET・・・センサーを全てOFFにし、スターターカット機能のみ働かせる場合に使用する「バレーモード」。

■車両状態チェック機能

リモコンのチェックボタンを押すことで、いつでもセキュリティの状態（ON/OFF状態・センサー反応の履歴など）が簡単に確認できます。
センサーが反応していた場合は、どのセンサーが反応していたかはもちろん、その時刻まで確認することができます。

※本体側に保存可能なセンサー反応履歴は最大4件までです。また、センサー反応時刻が確認できるのは過去24時間以内の履歴のみです。

■リモコンエンジンスターター機能 SQ7500のみ

遠距離からリモコンでエンジンのスタート・ストップが可能。厳冬期のアイドリングなどに特に便利です。
※適合車種のみ

■ドアロック連動機能

セキュリティのON・OFFに連動してドアロック・アンロックが可能。乗降時のスマートなコントロールが実現しました。
※適合車種のみ

■8音色120dB大音量サイレン

「いざ」という時、頼りになる大音量サイレンを装備。
コンパクトなので隠匿性も高く、危険を周囲にしっかり知らせます。

■わかりやすい大型液晶リモコン採用

本体やリモコンの設定状態を絵や文字でわかりやすく表示します。また、セキュリティレベルやセンサー感度などの複雑な設定も、文字やマークで視認しながら操作できるためとても簡単です。待ち受け時には、デジタル時計も表示されます。

■反転バックライト液晶

特殊フィルター採用により、夜間など暗い場所で操作する時は液晶の文字が青白くスタイリッシュに発光。視認性も向上しました。

■通信インジケータ

セキュリティON時は、車との通信電波状態を液晶画面上に常に表示しますので、通信圏内かどうかひと目でわかります。
※通信状態の表示は定期的に自動更新されます。

■バイブレーション機能

雑踏などでも確実にオーナーに危険を知らせるため、バイブレーション機能を標準搭載しました。

■最大7日間連続使用可能

リモコンは最大4時間の充電で最長約7日間の連続使用が可能です。
※連続使用可能時間は、使用頻度や電波環境などによって変化します。

■通信距離を考えたヘリカルアンテナ

通信距離を考え、固定式のヘリカルタイプアンテナを採用。アンテナを伸ばす必要もありません。

■防犯LED機能

アンテナユニット内蔵の赤色LEDが点滅することで、車上狙いなどの犯罪者を心理的に威嚇し、防犯効果を発揮します。

■電子式2段階ショックセンサー

ショックセンサー（微衝撃センサー・高衝撃センサー）は高性能の電子式。最新のセンシング技術をふんだんに採用し、誤作動を極限まで低減しました。

■デジタル傾斜センサー

クルマの傾きを検知する傾斜センサーは、坂道駐車でも使用可能。3軸方向のセンシングにも対応しています。

■ドアセンサー標準装備

ドアの不正開放を検知するドアセンサーを装備。
犯罪者の車内への侵入を防ぎます。

■イグニッションONセンサー搭載

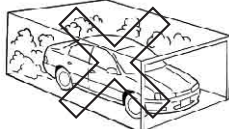
乗り逃げを防ぐため、セキュリティON中にイグニッションがONになるとセンサーが反応します。

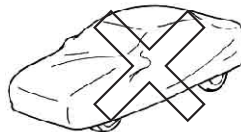
■その他の機能

ターボタイマー機能 SQ7500のみ
誤作動キャンセル機能
パニックアラーム機能
警報メモリー機能
周波数切替機能
警報履歴インジケータ機能
誤操作防止（キー操作ロック）機能
スペアリモコン対応
防犯ステッカー付属
電波法適合品
盗難保険対象商品
※詳細は別紙をご覧ください。

警告・注意事項（必ずお読みください）

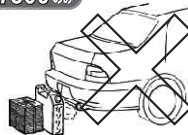
警告事項

⚠警告 SQ7500のみ

エンジンスターター機能およびターボタイマー機能は換気の良くない場所（ガレージ・立体駐車場・地下駐車場）で使用しないでください。排気ガスが充満して大変危険です。

⚠警告 SQ7500のみ

エンジンスターター機能およびターボタイマー機能は車にボディカバーを掛けたままで使用しないでください。
火災の恐れがあります

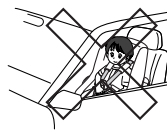
⚠警告 SQ7500のみ

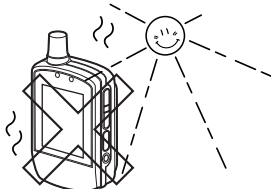
エンジンスターター機能およびターボタイマー機能はマフラーが雪で埋もれた状態で使用しないでください。
排気ガスが車内に充満する恐れがあります。
また配線の損傷による車両火災の原因にもなりますので大変危険です。

⚠警告 SQ7500のみ

エンジンスターター機能およびターボタイマー機能は車の近くに燃えやすいものがないことを確認してから、ご使用ください。
火災の恐れがあります。

⚠警告

リモコンは、お子様の手が届かない場所に保管してください。
誤操作による事故の恐れがあります。

⚠警告

お子様やペットなどを車内に残したままで、使用しないでください。
事故の恐れがあります。

⚠警告

リモコンは、直射日光の当たる場所・車内・暖房器具の近く等、高温になる場所で、保管または使用しないでください。
リモコンが高温になりやけどや故障の原因となります。
特に、車のダッシュボード上は非常に高温となりますので、絶対に放置しないでください。

⚠警告

車を他人に預ける時（整備に出す等）は、リモコンの電源をOFFにしてください。
誤操作による事故の恐れがあります。

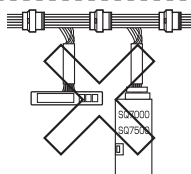
⚠警告

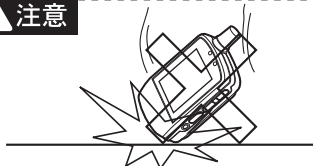
運転中に本品の操作をしないでください。
事故の原因になります。

⚠警告 SQ7500のみ

ターボタイマー機能を使用する際は、必ずセレクトレバーが「P」の位置でキーを抜いてください。また、カウントダウン中にキーを抜いたままセレクトレバーを動かすことができる車両は、ターボタイマー機能を使用しないでください。
事故の原因になります。

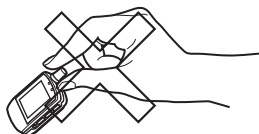
警告・注意事項（必ずお読みください）

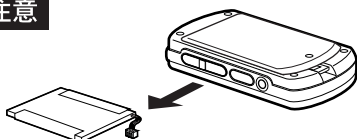
注意事項

ターボタイマー（スターター）や盗難警報機類との併用取付けはしないでください。
誤作動の原因となります。

⚠注意

リモコンを床に落としたり硬いものにぶつけたりしないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合があります。

⚠注意

リモコンは直接水のかかる場所や湿気の多い場所で、保管または使用しないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合があります。

⚠注意

リモコンのアンテナに強い力がかかるような持ち方をしないでください。破損の原因となります。

⚠注意

長時間使用しないときは、リモコンの電池を抜いておいてください。
故障の原因となります。

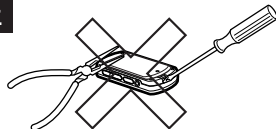
⚠注意

製品が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよく絞ってから拭き、乾いた布でもう一度拭いてください。
ベンジン、シンナー等の化学薬品は、絶対に使用しないでください。　変形・変色や故障の原因となります。

禁止事項

⚠禁止　SQ7500のみ

エンジンスターター機能およびターボタイマー機能は 安全な場所でご使用ください。道路で使用すると違法となりますので、絶対に使用しないでください。

⚠禁止

この製品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解したり、改造することは、法律で禁じられておりますので、絶対にしないでください。

⚠禁止

製品に貼付の技術適合証明ラベルをはがしたり、ラベルのないものを使用することは、法律で禁じられておりますので、絶対にしないでください

⚠禁止

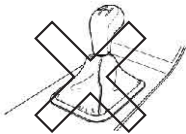
この製品は、日本国内の電波法に適合しています。国外での使用は、違法となる場合がありますので、おやめください。

⚠禁止　SQ7500のみ

一部地域では、暖機運転以外の目的で使用すると条例違反となります。

警告・注意事項（必ずお読みください）

禁止事項

【以下の車両の場合エンジンスターター機能はお使いいただけません】 SQ7500のみ

マニュアル車は、エンジンスターター機能が使用できません。 SQ7500のみ

⚠危険

マニュアル車へTEハーネス（車種別専用ハーネス）を使用して取付けることは、絶対にしないでください。
マニュアル車は、冬季にサイドブレーキの凍結を防ぐため、サイドブレーキを引かずにギアを「ロー」もしくは「バック」に入れ駐車する場合があります。また、坂道などに駐車する際にもギアを「ロー」もしくは「バック」に入れます。 その際に、エンジンスターターを使用すると、無人走行の原因となり、思わぬ大事故につながります。

SQ7500のみ

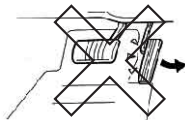
外車は、エンジンスターター機能が使用できません。

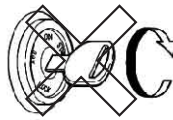
キーフリー
スマートキー

SQ7500のみ

キーフリーシステム・スマートキーシステム装着車は、エンジンスターター機能が使用できません。

89年以前の車でシフトロックが装着されていない車（フットブレーキを踏まずにセレクトレバーが「P」から移動できる車）は、エンジンスターター機能が使用できません。 SQ7500のみ

エンジン始動時に下記のような場合にはエンジンスターター機能が使用できません。 SQ7500のみ

［アクセル操作が必要な車］

［チョークレバーを引く車］

［年間通じて、キーを回して2秒程度でエンジンのかからない車］

ホンダ車の雨滴感応ワイパー装備車は、エンジンスターター機能が使用できません。 SQ7500のみ
取付けすると車両故障の原因となります。

参考 電波到達距離は、周囲の環境や使用状況により異なります。特に車と送信場所との間に建物等がある場合には、電波到達距離が短くなります。

参考 ほとんどの純正リモコンドアロック装着車は、車両の仕様上、エンジン始動中に純正リモコンドアロックが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能でのエンジン始動中は本品のドアロック/アンロック機能を使用するか、キーでドアを開ける必要がありますのでご了承ください。 SQ7500のみ

参考 極まれに、本品と純正のキーレスエントリーの電波が干渉し、キーレスエントリーの作動距離が極端に短くなる場合があります。その場合は、通信周波数の切替（→P54）をお試しください。

参考 本品のそばで大出力の無線機等を使用すると、無線機の発する電磁波により、誤作動や未作動の原因となる場合があります。

参考 本品の2段階ショックセンサーは、車体に与えられた衝撃をセンサーが感知しますが、車両の違いや取付状態の違いにより、感知する衝撃は変化します。取付後に必ず感度調整を行ってください。

参考 本品のスターターカット機能は、TEハーネスで取り付けた場合のみ、機能します。 従って、TEハーネスの設定のない車種（マニュアル車・外車など）では、スターターカット機能は使用できません。

参考 オートライトコントロール装着車は、ライトスイッチがAUTOの位置でエンジンスターターを作動させると、オートライト機能が正常に作動しない場合があります。ライトスイッチは必ずOFFの位置にしてご使用ください。 SQ7500のみ

参考 オートチルトおよびマイコンプリセットステアリング装着車は、エンジンスターターでエンジン始動した状態でイグニッションキーを差込んでもオートチルトおよびマイコンプリセットが作動しなくなりますので、キーでエンジンを再始動してください。 SQ7500のみ

参考 レーダー探知機を使用している場合、ごくまれにセキュリティON時に本品が発する電波にレーダー探知機が反応する場合があります（通常走行時は問題ありません）。特にソーラータイプで振動を感知して自動的に電源がON/OFFするタイプで、セキュリティON時にレーダー探知機が反応する場合には、通信周波数の切替（→P54）をお試しください。解決しない場合は、手動でレーダー探知機をON/OFFするようにしてください。

参考 リモコンをTV、パソコンなどの近くで使用するとノイズの影響により通信距離が短くなる場合があります。その場合はノイズ発生源から離してお使いください。

内容物・各部の名称

ページ

内容物・各部の名称 ①

リモコン（液晶表示部）

セキュリティの状態などをわかりやすく表示します。

本品のリモコン液晶部は特殊なフィルターが内蔵されており、室内・夜間等周囲が暗い場所で操作した際に、文字やマークが青白く表示されるようになっています。

リモコン状態表示部

通信インジケータ・・・・・・ 電波受信状態を表します。
キー操作ロック ・・・・・ リモコンのキー操作ロック状態を表します。
リモコンブザー音 ・・・・ リモコンのブザー音設定状態を表します。
バイブレーション ・・・・ リモコンのバイブレーション設定状態を表します。
電池残量警告マーク ・・・ リモコンの電池残量警告マークです。

メイン表示部

デジタル表示部
時刻表示をはじめ、さまざまな状態・設定状況などをわかりやすく表示します。

車両イラスト部
衝撃検出時やドア不正開放時など、イラストでわかりやすく状態を表示します。

・・・・センサーが反応したことを表します。

・・・・セキュリティONの時に表示を行ないます。

・・・・ドアセンサー（ワイヤレスランプセンサー）が反応したことを表します。

・・・・本品によるアイドリング中であることを 表します。SQ7500のみ

・・・・オプションのボンネットオープンセンサーが反応したことを表します。

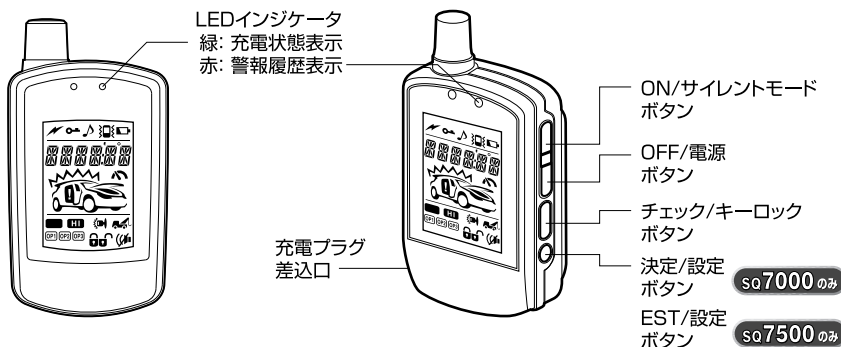
本体状態表示部

微衝撃センサー ・・・・・ 微衝撃センサーが反応したことを表します。
高衝撃センサー ・・・・・ 高衝撃センサーが反応したことを表します。
イグニッションONセンサー ・・ イグニッションONセンサーが反応したことを表します。
傾斜センサー ・・・・・・・ 傾斜センサーが反応したことを表します。
セキュリティON ・・・・・ セキュリティがONであることを表します。
セキュリティOFF ・・・・ セキュリティがOFFであることを表します。
サイレントモード ・・・・ サイレントモード設定中であることを表します。
OP1 OP2 OP3 オプションセンサー ・・ 別売の拡張ボックスに接続したセンサーオプションが反応したことを表します。

（ および は車両のドアロック状態を表すものではありませんのでご注意ください。）

内容物・各部の名称 ②

リモコン（1ヶ）

セキュリティのON/OFFはもちろん、さまざまな設定も行なえます。
また、愛車の異常をリアルタイムで知ることができます。

※リモコンの電源がONの時、決定/設定ボタンを押すとバックライトが約2秒間点灯しますので、暗い場所などで表示内容を確認する時に便利です。 SQ7000 のみ

メインユニット（1ヶ）

▼専用ハーネス側

メインユニット設定スイッチ SQ7500 のみ

オプション端子（黄） SQ7500 のみ
※イモビ付車対応アダプター（別売）取付用

P/N検出モードスイッチ
SQ7500 のみ

専用ハーネス差込口

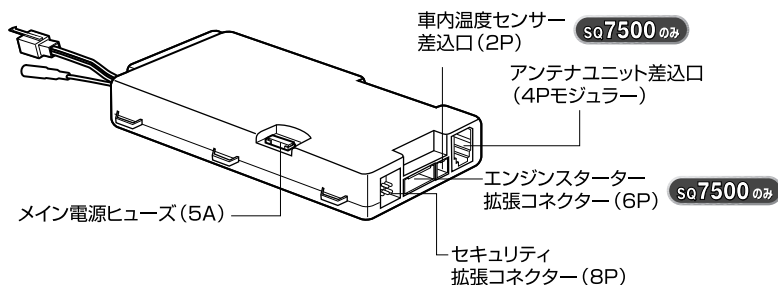
ドアロックコネクター

▼アンテナユニット側

車内温度センサー
差込口（2P） SQ7500 のみ

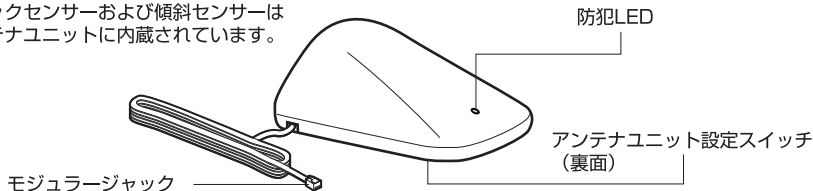
アンテナユニット差込口
（4Pモジュラー）

エンジンスターター
拡張コネクター（6P） SQ7500 のみ

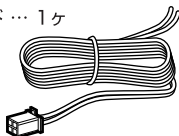
メイン電源ヒューズ（5A）

セキュリティ
拡張コネクター（8P）

内容物・各部の名称 ③

アンテナユニット（1ヶ）

ショックセンサーおよび傾斜センサーは
アンテナユニットに内蔵されています。

その他付属品

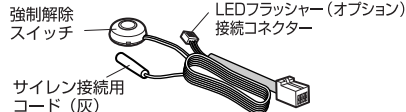
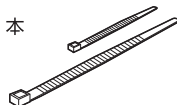
●8音色サイレン … 1ヶ

●ドアロックコード … 1ヶ

●ワンタッチコネクター … 6ヶ（SQ7000は3ヶ）
ドアロックコードなどの配線に使用します。

●両面テープ … 2枚
サイレンおよびアンテナユニットの取付けに
使用します。

●家庭用充電アダプター　1ヶ
リモコンの充電を行なう際に必要です。

●ドア検出コード … 1ヶ

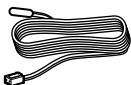
●セキュリティ拡張コード … 1ヶ

●結束バンド　… 小 5本・大 1本
配線の結束やメインユニット
の固定などに使用します。

●両面テープ … 2枚
サイレンおよびアンテナユニットの取付けに
使用します。

●ストラップ … 1ヶ
リモコンをキーホルダーなどに
付ける際に使用します。

●防犯ステッカー … 1枚
後部座席の窓に貼り付けます。

●取扱説明書（本書）・取付マニュアル・かんたん操作ガイド
… 各1部

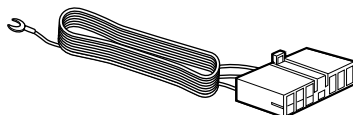
SQ7500のみ

●車内温度センサー … 1ヶ

●車内温度センサー固定金具… 4ヶ
車内温度センサーを車内に固定する際に使用します。

●危険シール … 1枚
エンジンルーム内の
目立つ場所に貼付けます。

●モードシール … 1枚
運転席ドアを開けた時に見える
ドアの付け根付近などに貼付けます。

SQ7000のみ

●電源コード … 1ヶ

使いかたの基本

ページ

リモコンの充電を行なう

※はじめて使うときは、P55を参照の上あらかじめ電池を入れてから充電を行ってください。

解　説

本品は、付属の家庭用充電アダプターを使用してリモコンの充電を行なうことができます。
初めて使うときや、リモコンの電池残量警告マークが点灯した場合は必ず充電を行なってください。

⚠注意 専用充電池（品番=SQ109）以外は絶対に使用しないでください。
また、付属の家庭用充電アダプター以外は絶対に接続しないでください。

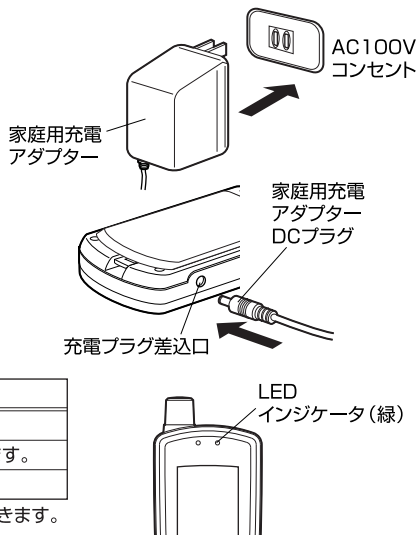
① 家庭用充電アダプターのACプラグを、家庭用AC100Vコンセントに差し込みます。

② 家庭用充電アダプターのDCプラグを、リモコンの充電プラグ差込口に差し込みます。

③ 充電が開始されます。

充電中はLEDインジケータ（緑）の状態で、充電状況がわかります。

LEDインジケータ（緑）の状態	充電状況
連続点灯	充電中です。
点滅	満充電に近づいています。
消灯	満充電状態です。

※充電が満充電に近づくにつれて、点灯時間が序々に短くなっていきます。

参考 満充電までの時間は最大約4時間です。

参考 充電開始時の電池残量によって、満充電までの時間は変化します。

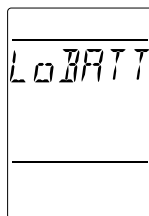
参考 充電中に操作や通信を行うと、一時的にリモコン内部の電圧が降下するため、LEDインジケーター（緑）が点滅または点灯することがあります。

参考 充電が完了しても充電アダプターを抜く必要はありません。

参考 充電中以外は、リモコン液晶の電池残量警告マークによって電池残量がわかります。

電池残量警告マークの状態	電池残量
点灯している場合	電池が減ってきました（残量約10%未満）。 すぐに充電を行なってください。
消灯している場合	通常使用可能です。

※充電しないまま電池が減ると・・・

リモコンの電源が入った状態で、電池が減っているにも関わらず充電を行なわないでいると、右図のような表示を行なうと共に、自動的にバイブレーション（2回）を行ない、電池残量の低下を警告します。この表示の後は、自動的にリモコンの電源がOFFになりますので、次にリモコンを使用する前には必ず充電を行なってください。

リモコンの電源を入れる（切る）

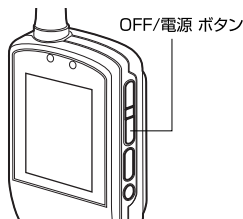
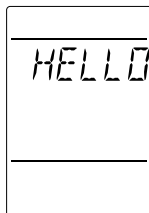
解　説

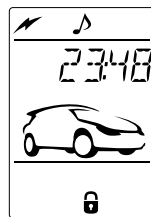
本品のリモコンは、ボタン操作によって電源のON/OFFが行なえます。
明らかに通信圏外である場合などは電源をOFFにしておくことで、電池の消耗を防ぐことができます。

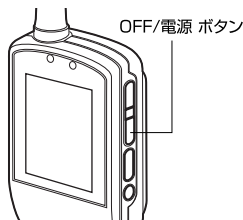
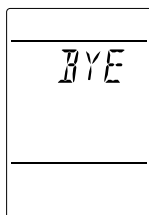
参考 電源がOFFの状態でも、電池自体が自己放電を行なうため、完全に電池の消耗を防ぐことはできません。

参考 電源がOFFの状態では、車両からの異常通報をリアルタイムで受け取ることができません。

電源の入れかた

① リモコンの『OFF/電源』ボタンを3秒以上押し続けます。

② 液晶表示部に次のような表示が行なわれます。

③ 自動的に本体との通信を試み、通信が成立した場合は、セキュリティの設定状態がアンサーバックされます。
また、本体との通信ができない場合はセキュリティの設定状態（🔒または🔓）を表示せずに時計表示となります。
※設定状態によって表示内容は異なります。

参考 リモコンが電源OFFの間に本体が異常を検知していた場合は、最新の異常履歴が自動的にアンサーバックされます。

電源の切りかた

① リモコンの『OFF/電源』ボタンを3秒以上押し続けます。
※リモコンによる機能設定中（→P30〜P38）は、電源をOFFにできません。

② 液晶表示部に次のような表示が行なわれた後、電源が切れます。

セキュリティをONにする(ドアをロックする)

解　説

本品はリモコン操作によって簡単にセキュリティのON/OFFが行なえます。
ここでは、セキュリティをONする場合の操作方法を解説します。

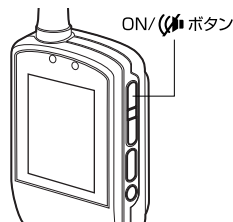
手　順

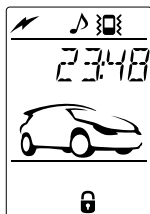
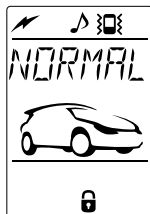
※設定状態によって表示内容は異なります。
※この操作を行うと、それまでの異常履歴はリセットされます。

① リモコンの『ON/ 』ボタンを「カチッ」と押して離します。

ON/ ボタン

参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受け付けません。

参考 3秒以上『ON/ 』ボタンを押し続けると、サイレントモード（→P30）でセキュリティがONになります。

② 液晶表示部に次のような表示が行なわれます。

③ 本体との通信が成立した場合は、セキュリティの設定状態がアンサーバックされ、アンサーバック待機状態（時計表示）となります。

④ 同時に本体のサイレンが「ピッ」と鳴り、セキュリティがONになります。
ドアロック配線を行なっている場合はドアがロックされます。
※セキュリティレベルがSILENT（サイレントモード）の時は、サイレンは鳴りません。

ピッ

これでセキュリティがONになりました。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。

●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。

これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

セキュリティをOFFにする(ドアをアンロックする)

解　説

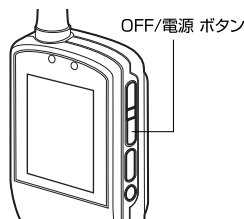
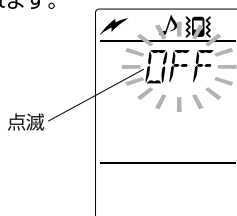
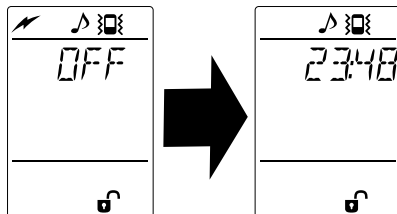
本品はリモコン操作によって簡単にセキュリティのON/OFFが行なえます。
ここでは、セキュリティをOFFする場合の操作方法を解説します。

手　順

※設定状態によって表示内容は異なります。

① リモコンの『OFF/電源』ボタンを「カチッ」と押して離します。

参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受け付けません。

参考 3秒以上『OFF/電源』ボタンを押し続けると、リモコンの電源がOFFになりますのでご注意ください（→P15）。

② 液晶表示部に次のような表示が行なわれます。

③ 本体との通信が成立した場合は、セキュリティの設定状態がアンサーバックされ、アンサーバック待機状態（時計表示）となります。

④ 同時に本体のサイレンが「ピッピッ」と鳴り、セキュリティがOFFになります。
ドアロック配線を行なっている場合はドアがアンロックされます。
※セキュリティレベルがSILENT（サイレントモード）の場合、サイレンは鳴りません。また、セキュリティON中に警報履歴がある場合は、サイレンが「ピッピッピッピッ」と4回鳴って、警報があった事を知らせます（警報メモリー機能）。

これでセキュリティがOFFになりました。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。
- ●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
- ●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
- ●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。

これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

リモコンでエンジンをかける SQ7500のみ

※純正キーレスエントリー装着車の場合、車両側の構造上、エンジンスターター始動中は純正キーレスエントリーの操作を受付けない場合があります。（本品のドアロック機能は働きます。）

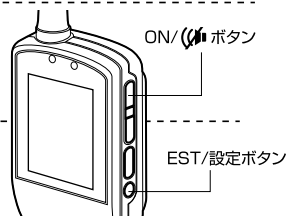
この機能を使用する前に

必ずP6～P8の警告事項および注意事項をお読みになった上でご使用ください。

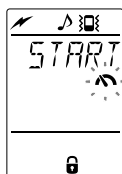
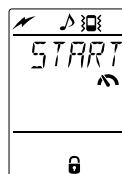
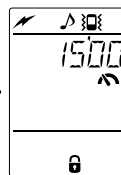
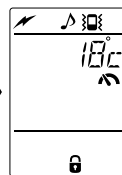
参考 リモコンでエンジンを掛けた後、実際に走行するには、そのままキーを差し込んでイグニッションをONにする必要があります。（一旦エンジンを止めてキーで掛け直す必要はありません。）

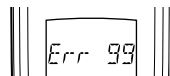
操作方法

① リモコンの「EST/設定」ボタンを「カチッ」と押して離します。

参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受付けません。

② 液晶画面に EST の文字が表示されたらON/ ボタンを「カチッ」と押して離します。

参考 この時、「EST/設定」ボタンを押すと時計表示に戻ります。

③ 以下のような表示が行なわれます（表示の切り替り毎にバックライトが点灯します）。

右図のようなエラー表示（Err 99 など）が出る場合はP57・P58のエラー表示一覧をご確認ください。

Err 99

（※1）エンジンが掛かったかどうかメインユニットが判断するまでこの表示が続きます。また、すでに本品によるエンジン始動が行なわれている場合は、この表示は行ないません。
（※2）30秒以内にリモコンがエンジン始動確認OKの信号を受信できなかった場合は、時計表示に戻ります。
（※3）温度表示は取付場所によって実際の車室内の温度とは異なる場合があります。

参考 エンジンスターターによるエンジン始動中はアンテナユニットのブザーが約1秒おきに「ピッピッ……」と鳴りつづけます。

これでエンジンがスタートしました。

正常に操作できているにもかかわらず、エンジンが始動しない場合は、56～58ページの「エンジンスターター機能が作動しない場合」をご覧ください。

アイドリング延長機能

すでに本品によりエンジンが始動している状態から本ページの操作を行なうと、再び設定した自動停止時間（→P35）までアイドリング時間を延長します。
※排気ガスによる大気汚染を防ぐため、不必要なアイドリングの延長は行なわないでください。

リモコンでエンジンを止める SQ7500のみ

参考
・本操作でエンジンを停止できるのは、本品によってエンジンを掛けた場合と、ターボタイマー機能によりアフターアイドリングを行なっている場合だけです。
・キーシリンダーにキーを差して「イグニッションON」（通常走行の位置）に回している場合は本操作でエンジンを止めることはできません。

操作方法

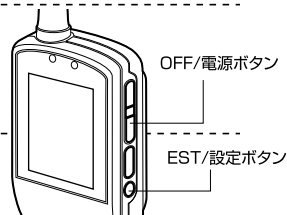
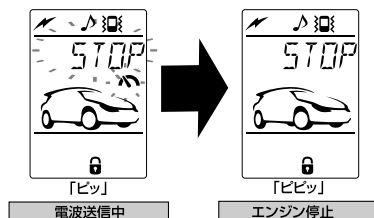
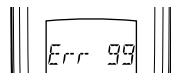
① リモコンの「EST/設定」ボタンを「カチッ」と押して離します。

参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受付けません。

OFF/電源ボタン

EST/設定ボタン

② 液晶画面に EST の文字が表示されたらOFF/電源 ボタンを「カチッ」と押して離します。

参考 この時、「EST/設定」ボタンを押すと時計表示に戻ります。

③ 以下のような表示が行なわれます。

右図のようなエラー表示（Err 99 など）が出る場合は
P57・P58のエラー表示一覧をご確認ください。

これでエンジンがストップしました。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。

●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。

これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

車両状態のチェックをする

解　説

本品はリモコン操作によって車両のセキュリティ状態が確認できます。

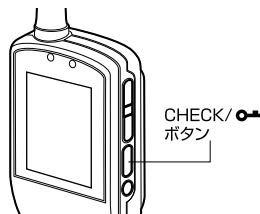
手　順

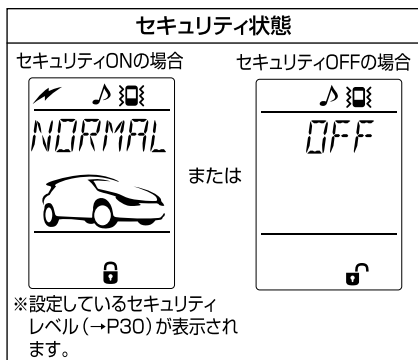
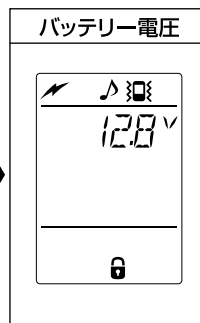
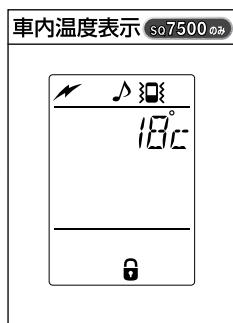
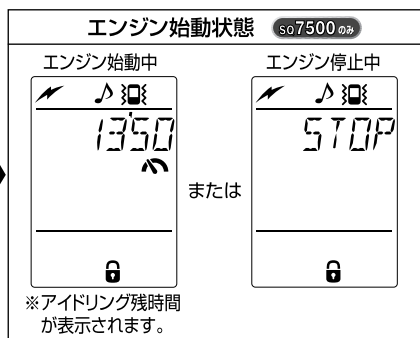
※設定状態によって表示内容は異なります。

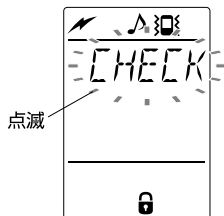
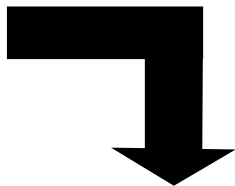
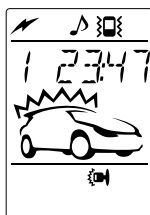
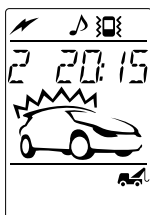
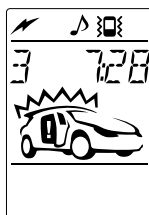
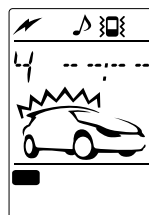
① リモコンの液晶画面が時計表示の時に、リモコンの『CHECK／🔑』ボタンを「カチッ」と押して離します。（異常履歴表示中の場合は、一度『CHECK／🔑』ボタンを 押して時計表示に切り替えてから操作してください。）

CHECK／🔑
ボタン

参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受け付けません。

参考 3秒以上『CHECK／🔑』ボタンを押し続けると、リモコンのキー操作がロックされますのでご注意ください（→P22）。

② 液晶表示部に次のような表示が行なわれます。

本体に異常履歴が無い場合

車両状態のチェックをする ②

本体に異常履歴が残っている場合

⚠注意 傾斜センサー・ドアセンサー・イグニッションONセンサー・ボンネットセンサー（オプション）のいずれかが反応した場合は、重大な危険が起こっていると想定されるため、それ以後に発生した衝撃センサーの反応履歴は表示しません。

異 常 履 歴（表示例）
最新の情報から順に、最大4件までの履歴表示を行ないます。

23:47にイグニッションONセンサーが反応しました。

20:15に傾斜センサーが反応しました。

7:28にドアセンサーが反応しました。

24時間以上前に微衝撃センサーが反応しました。

※異常履歴の詳しい見方は、P26～P27をご覧ください。

参考 24時間以上前の異常履歴は時間表示を行いません。

参考 時計の設定（→P36）が正しく行なわれていない場合は、正確な時間が表示されません。

参考 セキュリティONの操作または通常走行を行なうと、本体に保存されている履歴は全てクリアされます。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。

- ●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
- ●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
- ●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。

これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

リモコンのボタン操作を無効にする（キー操作ロック機能）

解　説

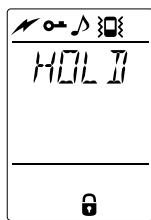
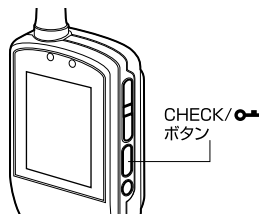
本品はリモコンのボタン操作をロックして、不意の誤操作を防止することができます。

設定方法

※設定状態によって表示内容は異なります。

① リモコンの液晶画面が時計表示の時に、リモコンの『CHECK／O━』ボタンを3秒以上押し続けます。
（異常履歴表示中の場合は、一度『CHECK／O━』ボタンを押して時計表示に切り替えてから操作してください。）

参考　3秒未満でボタンから指を離すと、チェック操作（→P20）となりますのでご注意ください。

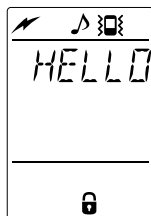
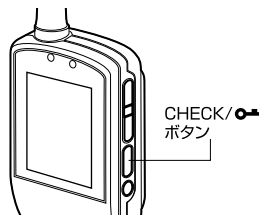
② 液晶表示部にHOLDの文字とO━が表示されます。

これでボタン操作が無効になりました。

※キー操作ロック中でも電源OFFの操作は可能です。また、サイレン作動中はセキュリティON/OFF操作でサイレンを停止することができます。

解除方法

※設定状態によって表示内容は異なります。

① 設定時と同様に、リモコンの液晶画面が時計表示の時、リモコンの『CHECK／O━』ボタンを3秒以上押し続けます。
（異常履歴表示中の場合は、一度『CHECK／O━』ボタンを 押して時計表示に切り替えてから操作してください。）

② 液晶表示部にHELLOの文字が表示されO━が消灯します。

これでボタン操作が可能になりました。

※リモコンの電源を一旦OFFにして再びONにした場合も解除されるようになっています。

ターボタイマーを使用する SQ7500のみ

本品には、アフターアイドリングが必要なターボ車のために「ターボタイマー機能」が装備されています。ターボタイマー機能を使用すると、キーをOFFにした後、走行時間（エンジンキーをONにしてからOFFになるまでの時間）に応じたアフターアイドリングが自動的に行なえます。

⚠警告
・ターボタイマー機能を使用する際は、必ずセレクトレバーが「P」の位置でキーを抜いてください。また、カウントダウン中にキーを抜いたままセレクトレバーを動かすことができる一部の車両は、ターボタイマー機能を使用しないでください。事故の原因になります。

参考
・キーによるエンジン始動時間が約10秒未満の場合は、ターボタイマーは作動しません。

操作方法

・ターボタイマーを使用するには本体の設定が必要です(→P42)。設定が行われていない場合は本機能は作動しませんのでご注意ください。

① エンジンが始動している状態（通常の走行状態）から、イグニッションキーをOFFにします。

② 自動的にターボタイマーのアフターアイドリングが始まります。

アフターアイドリング時間の目安

走行時間	アフターアイドリング時間	アンテナユニットの音
～ 30分	1分	ピッ ピッ ピッ……
30分 ～ 60分	2分	ピピッ ピピッ ピピッ……
60分 ～	3分	ピピピッ ピピピッ……

※アンテナユニットの音はアフターアイドリングの残り時間によって変化します。
これにより、おおよそのアフターアイドリング残時間を知ることができます。

③ アフターアイドリングが終了すると、自動的にエンジンが停止します。

アフターアイドリングを途中で止める場合

リモコンの「STOP」ボタンを押すとアフターアイドリングが停止します。

※リモコンが手元にない場合は以下のいずれかの方法を行ってください。

(a) P/N検出を行なっている場合（→P44）
ターボタイマー作動開始から約3秒以上経過したあと、イグニッションキーを「ON」にしてセレクトレバーを一旦「P」から「R」に動かすとカウントダウンが停止します。カウントダウンが停止したらセレクトレバーを「P」に戻し、5秒以内にキーでエンジンを切り、キーを抜いてください。

(b) フットブレーキ検出を行なっている場合（→P44）
ターボタイマー作動開始から約3秒以上経過したあと、車両のフットブレーキを踏むとエンジンは止まります

参考

ターボタイマー機能は、NA車などターボタイマーが必要ない車両にも設定することができますが、その場合無駄なアイドリングを行う事となり、排気ガスが環境に悪影響を及ぼす原因となるばかりか、騒音の発生やアイドリング時の燃料消費による燃費の悪化を招くため、特にアフターアイドリングの必要がない車種の場合は設定しないようにお願いします。

●純正キーレスエントリー装着車の場合、車両側の構造上、ターボタイマー作動中は純正キーレスエントリーの操作を受け付けない場合があります（本品のドアロック機能は働きます）。

●ガソリンスタンド利用時など、ターボタイマーを途中で止めたい場合は、リモコンからエンジンを停止させる操作をするか、安全機能（P/N検出もしくはフットブレーキ検出）を利用してエンジンを止める事ができます。

強制的にサイレンを鳴らす（パニックアラーム）

解　説

本品はリモコンからの遠隔操作でいつでも強制的にサイレンを鳴らすことができます（パニックアラーム機能）。ここでは、パニックアラームの操作方法を解説します。

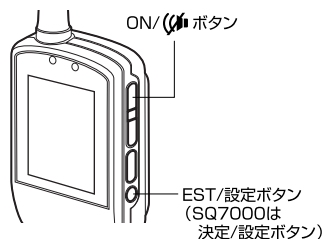
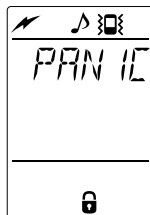
参考 本品のサイレンは、約120dBの大音量を発するため、人やペット・動物などの至近距離で作動させると聴覚障害等の原因となる可能性があります。 絶対にイタズラ目的では使用しないでください。

活用法

・愛車の周辺に明らかな不審人物を発見した場合。
・カージャックなどによる身の危険を周囲に知らせる場合。

手　順

※設定状態によって表示内容は異なります。

① リモコンの『ON/🔇』ボタンとEST/設定ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を同時に3秒以上押し続けます。

② 液晶表示部に次のような表示が行なわれます。

③ 本体のサイレンが強制的に30秒間鳴ります。

参考 パニックアラームが停止した後、セキュリティのON/OFF状態は操作時のまま保たれています。

参考 誤ってサイレンを鳴らした場合など途中で停止するには、セキュリティONまたはOFFの操作を行なってください（→P16・17）。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。

●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。

これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

セキュリティを強制解除する

解　説

万一、リモコンでセキュリティOFFの操作ができなくなった場合は強制解除スイッチを使用することでセキュリティをOFFにすることができます。

参考 強制解除スイッチは他人に知られない場所に取付けてください。

操作方法

① セキュリティONの状態で強制解除スイッチを1秒以上押します。

② 一旦セキュリティがOFFになります。

※センサー反応履歴は消去されません。
※再度セキュリティをONにするには、リモコンでセキュリティONの操作する必要があります。

センサー反応時の動作について

解 説

本品は、センサーの反応に応じた様々な警報パターンがあります。
本品を最大限に活用して頂くために、本項の内容をよくお読みになった上でお使いください。
このページに記載されている動作は、セキュリティレベルがNORMALの場合の動作です。
また、設定の内容によっては以下の表示内容と異なる場合があります。
詳しくは設定に関するページをご覧ください。

センサー反応時の動作

	サイレンの鳴り方	リモコンの反応
(1)微衝撃センサー反応時	ピピピピ	が点灯し、約10秒間通報音が鳴ります。
(2)高衝撃センサー反応時	約2秒間のサイレン音	HI が点灯し、約15秒間通報音が鳴ります。
(3)傾斜センサー反応時	約30秒間のサイレン音	が点灯し、約30秒間通報音が鳴ります。
(4)ドアセンサー反応時	約30秒間のサイレン音	が点灯し、約30秒間通報音が鳴ります。
(5)イグニッションONセンサー反応時 ※イグニッション検出設定(→P33)を"B"にした場合のみ	約30秒間のサイレン音	が点灯し、約30秒間通報音が鳴ります。
(6)ボンネットセンサー反応時 (オプション) ※要拡張BOX	約30秒間のサイレン音	が点滅し、約30秒間通報音が鳴ります。
(7)その他のオプションセンサー反応時 ※要拡張BOX	OP1(注意)…ピピピピ OP2(警告)…約2秒間のサイレン音 OP3(撃退)…約30秒間のサイレン音	OP1 OP2 OP3 のいずれかが点灯し、それぞれ約10秒間/約15秒間/約30秒間の通報音が鳴ります。

参考 衝撃センサー反応後、連続してドアセンサーが反応した場合などは、一旦衝撃センサー反応時の動作をした後に遅れてドアセンサーの反応動作が行われます。(反応には約15秒間の間隔が開きます)。

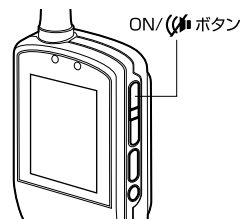
参考 微衝撃センサーは連続して反応し続けた場合、本体が異常と判断して一時的に反応をキャンセルします(誤動作防止機能)。

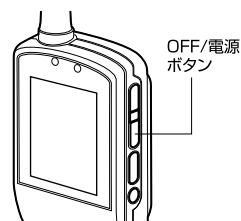
センサー反応時の動作について ②

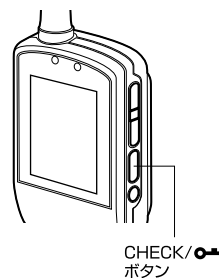
警報を途中で止めるには

●本体（車両側）のサイレンを途中で止める場合

① リモコンの『ON／(🔇)』ボタンを「カチッ」と押して離します。
※セキュリティONの状態でサイレンが停止します。

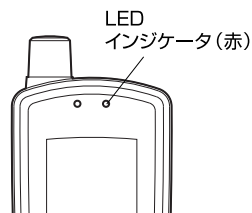
参考 3秒以上『ON/(🔇)』ボタンを押し続けると、サイレントモード（→P30）でセキュリティがONになります。

② または、リモコンの『OFF/電源』ボタンを「カチッ」と押して離します。

参考 3秒以上『OFF/電源』ボタンを押し続けると、リモコンの電源がOFFになりますのでご注意ください（→P15）。

●リモコンの通報音のみを途中で止める場合

『CHECK／🔑』ボタンを「カチッ」と押して離すことでリモコンの通報音だけを止めることができます。

センサー反応時の動作について ③

リモコン通報の履歴表示について

リモコンへ通報が行なわれた後、セキュリティONまたはOFFの操作を行なうまでの間は、通報の内容が「履歴表示」として残ります。
また、リモコンのLEDインジケータ（赤）が以下のように点滅することで、夜間など暗い場所でも履歴表示に気づかない事を防ぎます。

点滅状態	反応したセンサー
1回づつの点滅	微衝撃センサー反応時
2回づつの点滅	高衝撃センサー反応時
3回づつの点滅	傾斜センサー・ドアセンサー・イグニッションONセンサー・ボンネットセンサー（オプション）いずれかの反応時

※『CHECK/ ⊶ 』を押して時計表示に戻すとLEDインジケータは消灯します。

アイドリング中に働くセンサーについて SQ7500のみ

※アイドリング中は、誤動作を防ぐためにドアセンサー及びオプションのボンネットセンサー・ OP3 対応したセンサー以外のセンサーをキャンセルします。

使い方の基本

いろいろな機能を設定する

この項では、時計の合わせ方やセンサー感度の調整など、
本品をより便利に使うための設定方法を解説しています。

ページ

セキュリティレベルを切り替える 出荷時設定=NORMAL

※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

解　説

本品は使用する環境に合わせてセキュリティレベルを切り替えることができます。
この設定はセキュリティのON・OFFに関わらず行なえます。

■セキュリティレベル毎の機能一覧表

セキュリティレベル	微衝撃センサー	高衝撃センサー	傾斜センサー	ドアセンサー	イグニッションONセンサー	ボンネットセンサー(オプション)	オプションセンサー(OP1・OP2)	オプションセンサー(OP3)	本体サイレン
NORMAL(標準設定)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ROAD(路上駐車モード)	ー	ー	○	○	○	○	ー	○	○
TOWER(立体駐車場モード)	ー	ー	ー	○	○	○	ー	○	○
SILENT(サイレントモード)	○	○	○	○	○	○	○	○	リモコンへの通報のみ
VALET(バレーモード)	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー

参考　微衝撃センサーを作動させず、高衝撃センサーのみ作動させたい場合などは、作動させたくないセンサーの感度を"0"に設定してください(→P31)。

参考　本設定に関わらず、ON/ ボタンを3秒以上長押しした場合はサイレントモードでセキュリティがONになります。

活用例

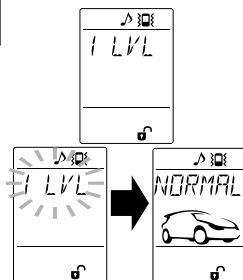
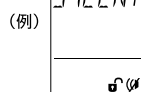
- ●全てのセンサーを活用する場合 ･･NORMAL
- ●交通量の多い場所など、衝撃センサーを働かせたくない場合 ･･････････････････ ROAD
- ●タワー式駐車場など、ドアセンサーのみを働かせる場合 ･････････････････････････TOWER
- ●近所迷惑が心配でサイレンを鳴らさず、リモコン通報だけを活用する場合 ････････ SILENT
- ●センサー全てOFFにし、乗り逃げ防止のスターターカット機能だけを使用する場合 ････ VALET

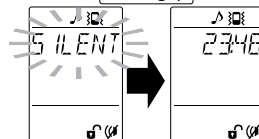
操作方法

※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、『CHECK/ 』を押すことでひとつ前の表示に戻すことができます。

① リモコンの液晶画面が時計表示の時に、『EST/設定』ボタン(SQ7000は決定/設定ボタン)を3秒以上押し続けます。

② リモコンに右図のような表示が行なわれます。

③ 『EST/設定』ボタン(SQ7000は決定/設定ボタン)を押すと、本体との通信を行ない、現在設定されているセキュリティレベルが 画面に表示されます。

④ 『ON/ 』ボタンまたは『OFF/電源』ボタンを押して、希望のセキュリティレベルに合わせます。

⑤ 最後に『EST/設定』ボタン(SQ7000は決定/設定ボタン)を押して、本体へ設定内容を送信します。
設定が完了すると、自動的に時計表示に戻ります。

いろいろな機能の設定

ショックセンサーの感度を調整する 出荷時設定=8

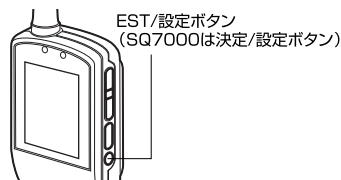
※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

解　説

本品はリモコンで簡単にショックセンサーの感度が調整できます。
感度調整は微衝撃センサー・高衝撃センサーそれぞれ独立して行なうことができます。
この設定はセキュリティのON・OFFに関わらず行なえます。

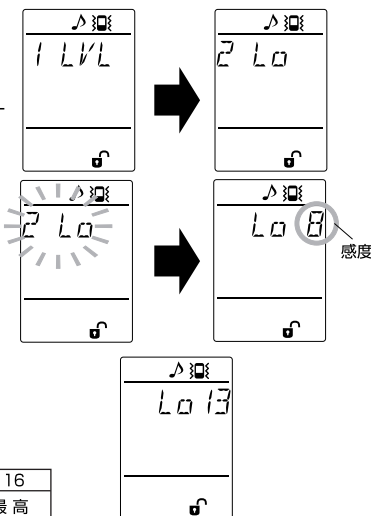
操作方法

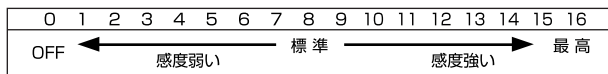
※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、『CHECK/ 』を押すことでひとつ前の表示に戻すことができます。

① リモコンの液晶画面が時計表示の時に、『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を3秒以上押し続けます。

② リモコンに右図のような表示が行なわれたら、『ON/ 』ボタンを1回または2回押し、ショックセンサーの感度調整モードに切替えます。

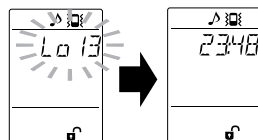
2 Lo・・・微衝撃センサーの感度調整
3 HI・・・高衝撃センサーの感度調整

※『ON/ 』ボタンを押し過ぎた時は、『OFF/電源』ボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。

③ 『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押すと、本体との通信を行ない、現在設定されている感度が画面に表示されます。

④ 『ON/ 』ボタンまたは『OFF／電源』ボタンを押して、数字を上下させ、希望の感度に合わせます。

●感度について
数字が大きいほど、感度が強くなります。

●微衝撃センサーと高衝撃センサーの調整バランスについて（目安）
本品のショックセンサー感度は、おおよそ下図のような調整範囲を持っています。また、微衝撃センサーと高衝撃センサーが両方とも反応した場合は、高衝撃センサーの反応のみが優先されます。このため、微衝撃センサーを低めの設定（1や2など）にし、高衝撃センサーを高めの設定（15や16など）にした場合、微衝撃センサーが反応せず、高衝撃センサーのみが反応する設定となります。

微衝撃センサー	0　　　　　　　（1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16）
高衝撃センサー	0（1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16）
	OFF　弱い（反応しにくい）←→強い（敏感に反応する）

⑤ 最後に『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押すと、本体へ設定内容を送信します。設定が完了すると、自動的に時計表示に戻ります。

参考 車体などに衝撃を与えてショックセンサー感度を確認する際は、セキュリティONの後、5秒以上経過してから行なってください。

傾斜センサーの感度を調整する 出荷時設定=2

※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

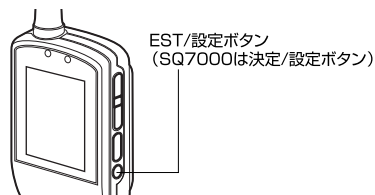
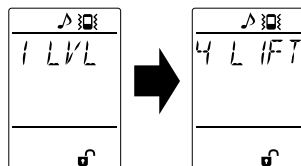
解　説

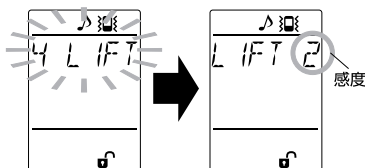
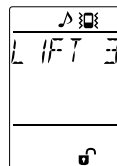
本品は使用する環境に合わせてセキュリティレベルを切り替えることができます。
この設定はセキュリティのON・OFFに関わらず行なえます。

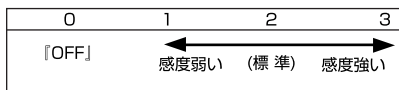
参考 本品の傾斜センサーはセキュリティON時の位置を0度（基準値）と認識しますので、 坂道など傾きのある場所に駐車した場合などでも使用できます。

操作方法

※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、『CHECK/ 』を押すことで、ひとつ前の表示に戻すことができます。

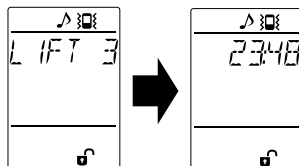
① リモコンの液晶画面が時計表示の時に、『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を3秒以上押し続けます。

② リモコンに右図のような表示が行なわれたら、『ON/ 』ボタンを3回押して傾斜センサーの感度調整モードに切り替えます。

③ 『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押すと、本体との通信を行ない、現在設定されている感度が画面に表示されます。

4 LIFT
LIFT 2
感度

④ 『ON/ 』ボタンまたは『OFF／電源』ボタンを押して、数字を上下させ、希望の感度に合わせます。

●感度について

数字が大きいほど、感度が強くなります。

●反応する角度の目安

本体の取付方法によって変化します。

感度	反応角度
3	約1.2度
2	約1.8度
1	約2.4度
0	反応しません

⑤ 最後に『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押して、本体へ設定内容を送信します。
設定が完了すると、自動的に時計表示に戻ります。

参考 実際にジャッキアップするなどして感度を確認する際は、セキュリティONの後、5秒以上経過してから行なってください。

イグニッションONセンサーの設定 出荷時設定=A

※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。
※SQ7000を付属の電源コードで接続している場合はイグニッション線の配線が必要です。

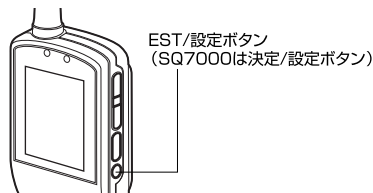
解　説

本品はセキュリティON中に不正にイグニッションがONになった事を検出し、乗り逃げ等を防ぐためのイグニッションONセンサーを使用することができます。

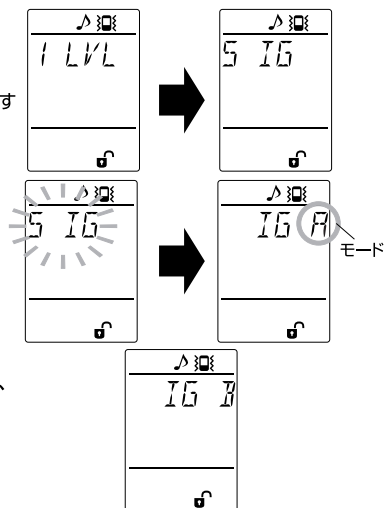
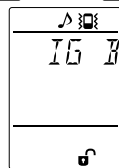
操作方法

※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、『CHECK/⊶』を押すことでひとつ前の表示に戻すことができます。

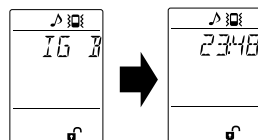
① リモコンの液晶画面が時計表示の時に、『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を3秒以上押し続けます。

EST/設定ボタン
（SQ7000は決定/設定ボタン）

② リモコンに右図のような表示が行なわれたら、『ON/🔊』ボタンを4回押してイグニッションONセンサーの設定モードに切替えます。

※『ON/🔊』ボタンを押し過ぎた時は、『OFF/電源』ボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。

③ 『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押すと、本体との通信を行ない、現在設定されているモードが画面に表示されます。

④ 『ON/🔊』ボタンまたは『OFF／電源』ボタンを押して、希望するモードに合わせます。

●設定の説明　※いずれの場合も、セキュリティON中にエンジンスターター機能を使用したり、ターボタイマー使用中にセキュリティONにする事は可能です。 SQ7500のみ

モード	設　　定	動 作 内 容
Aモード	イグニッションONセンサーを使用しない場合	イグニッションONセンサーは働きません。
Bモード	イグニッションONセンサーを使用する場合	セキュリティON中にキーでエンジンを掛けようとすると、30秒間サイレンを鳴らします。

⑤ 最後に『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押すと、本体へ設定内容を送信します。設定が完了すると、自動的に時計表示に戻ります。

参考 実際に動作を確認する際は、セキュリティONの後、5秒以上経過してから行なってください。

チャープ音（セキュリティON-OFF時のサイレン音）の設定 出荷時設定=ON

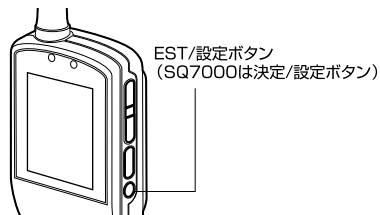
※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

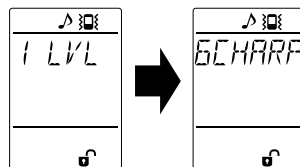
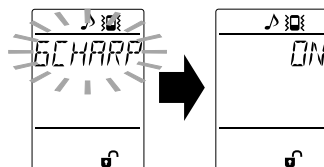
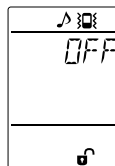
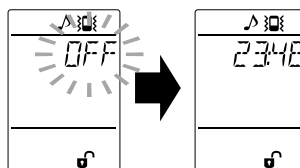
解　説

本品はリモコンで簡単にチャープ音の有無が設定できます。
この設定はセキュリティのON・OFFに関わらず行なえます。

操作方法

※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、『CHECK/🔑』を押すことでひとつ前の表示に戻すことができます。

① リモコンの液晶画面が時計表示の時に、『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を3秒以上押し続けます。

② リモコンに右図のような表示が行なわれたら、『ON/(🔊)』ボタンを5回押してチャープ音の設定モードに切り替えます。

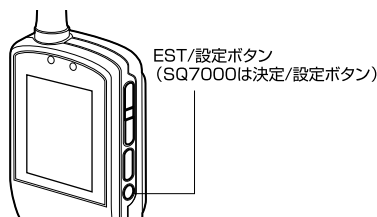
※『ON/(🔊)』ボタンを押し過ぎた時は、『OFF/電源』ボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。

③ 『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押すと、本体との通信を行ない、現在の設定状況が画面に表示されます。

④ 『ON/(🔊)』ボタンまたは『OFF／電源』ボタンを押して、設定を変更します。

⑤ 最後に『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押して、本体へ設定内容を送信します。
設定が完了すると、自動的に時計表示に戻ります。

ディレイタイム（センサーONまでの待機時間）の設定 出荷時設定=5秒

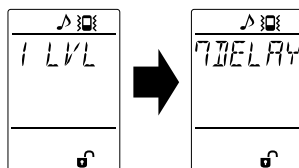
解　説

本品はリモコンで簡単にセキュリティONからセンサーがONになるまでの待機時間が設定できます。
この設定はセキュリティのON・OFFに関わらず行なえます。

操作方法

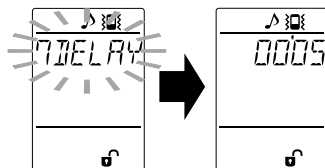
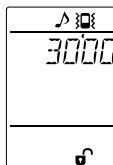
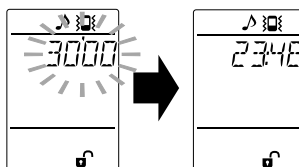
※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、『CHECK/🔑』を押すことでひとつ前の表示に戻すことができます。

① リモコンの液晶画面が時計表示の時に、『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を3秒以上押し続けます。

② リモコンに右図のような表示が行なわれたら、『OFF/電源』ボタンを5回押してディレイタイムの設定モードに切り替えます。

※『OFF/電源』ボタンを押し過ぎた時は、『ON/🔇』ボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。

③ 『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押すと、本体との通信を行ない、現在の設定状況が画面に表示されます。

④ 『ON/🔇』ボタンまたは『OFF／電源』ボタンを押して、設定を変更します。

⑤ 最後に『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押して、本体へ設定内容を送信します。
設定が完了すると、自動的に時計表示に戻ります。

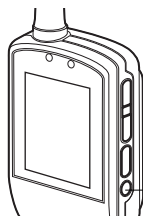
いろいろな機能の設定

時計の合わせ方

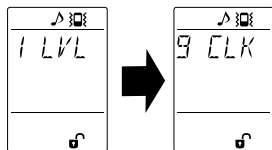
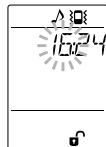
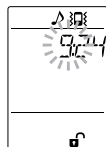
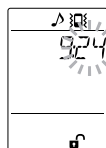
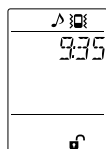
解　説

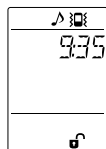
本品のリモコンには、デジタル時計が内蔵されています。ここでは、時計の合わせ方を解説します。

操作方法

※設定状態によって表示内容は異なります。
※本体との通信ができない場所でも本設定は行なえます。
※時計を合わせないと異常履歴表示（→P21）の時刻が正しく表示されません。

① リモコンの液晶画面が時計表示の時に、『決定／設定』ボタンを3秒以上押し続けます。

② リモコンに右図のような表示が行なわれたら、『OFF/電源』ボタンを3回押して時計設定モードに切り替えます。

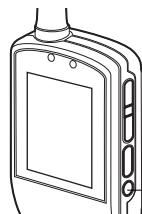
※『OFF/電源』ボタンを押し過ぎた時は、『ON/ 』ボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。

③ 『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押すと、画面に時刻が表示され、はじめに時間（0〜23）が点滅します。

④ 『ON/ 』ボタンまたは『OFF／電源』ボタンを押して、希望する時間（0〜23）に合わせます。

⑤ 時間（0〜23）を合わせたら『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押し、続いて分（00〜59）の設定を行ないます。

⑥ 分（00〜59）が合ったら『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押し、時刻を合わせます。

参考 時報の0秒に合わせて『決定／設定』ボタンを押すと、より正確な時刻が設定できます。

⑦ 設定が完了し、自動的に時計表示に戻ります。

リモコンのバイブレーション機能を設定する 出荷時設定=ON

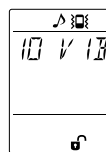
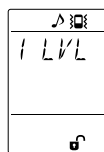
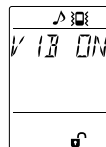
解　説

本品のリモコンは、万一の時に雑踏などで通報を聞き逃さないよう、バイブレーション（振動）機能が装備されています。
ここでは、バイブレーション機能のON/OFFの方法を解説します。

操作方法

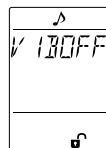
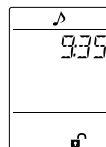
① リモコンの液晶画面が時計表示の時に、『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を3秒以上押し続けます。

EST/設定ボタン
（SQ7000は決定/設定ボタン）

② リモコンに右図のような表示が行なわれたら、『OFF/電源』ボタンを2回押してバイブレーション設定モードに切り替えます。

※『OFF/電源』ボタンを押し過ぎた時は、『ON/ 』ボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。

③ 『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押すと、現在の設定が表示されます。

④ 『ON/ 』ボタンまたは『OFF／電源』ボタンを押して、希望する設定に合わせます。

●設定の説明

設定	動作
VIB ON	バイブレーション機能ON
VIB OFF	バイブレーション機能OFF

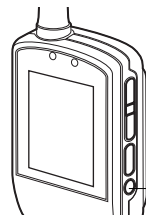
⑤ 設定が決まったら『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押します。

⑤ 設定が完了し、自動的に時計表示に戻ります。

リモコンのブザー音を設定する

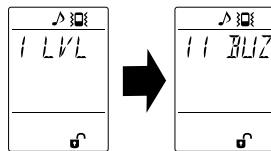
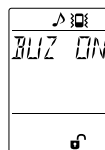
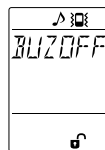
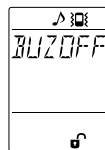
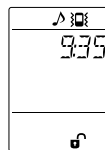
解　説

本品のリモコンは、音を鳴らしたくない場所でも使用できるよう、ブザー音を消すことができます。
※ブザー音をOFFに設定すると、万一の際の通報時も音が鳴りませんのでご注意ください。

操作方法

※設定状態によって表示内容は異なります。
※本体との通信ができない場所でも本設定は行なえます。

① リモコンの液晶画面が時計表示の時に、『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を3秒以上押し続けます。

② リモコンに右図のような表示が行なわれたら、『OFF/電源』ボタンを1回押してブザー音の設定モードに切り替えます。

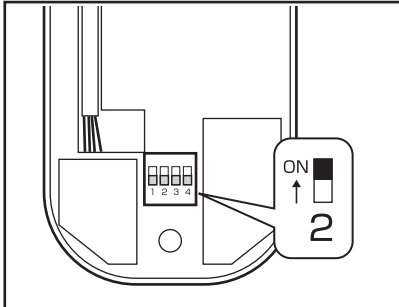
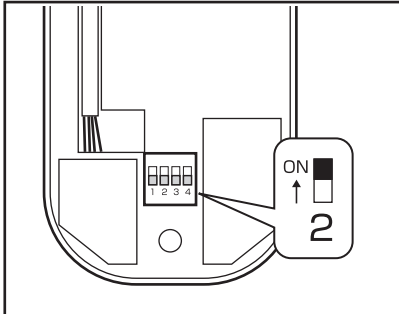
※『OFF/電源』ボタンを押し過ぎた時は、『ON/ 🔇 』ボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。

③ 『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押すと、現在の設定が表示されます。

④ 『ON/ 🔇 』ボタンまたは『OFF／電源』ボタンを押して、希望する設定に合わせます。

⑤ 設定が決まったら『『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押します。

⑥ 設定が完了し、自動的に時計表示に戻ります。

エンジンスターター関連の設定

この項では、エンジンスタータやターボタイマー関連の設定について解説しています。
この項で行う設定はアンテナユニット及びメインユニットの設定スイッチを使用して行います。

エンジンスターターのセルモーター回転時間を設定する SQ7500のみ

解　説

本品は、エンジンスターター作動時のセルモーターの回転時間を2段階で切り替えることにより確実なエンジン始動を行うことができます。

▼セル回転時間について

短め （約1秒）	通常はこちらの位置で使用してください。 （標準設定）
長め （約1.5秒）	通常のセルモーター回転時間ではエンジンが始動できない場合はこちらに切り替えて使用してください。特に冬期（寒冷時）はエンジンの掛かりが悪くなる傾向があるので、冬期のみこちらに切り替える必要がある場合もあります。

参考

- 本品は、一度目の始動動作でエンジンが掛からなかった場合、リトライ機能が働き、最初の始動と合わせて合計3回のエンジン始動を試みます。またその際は、一回の始動毎にセルモーターの回転時間が0.5秒づつ長くなる仕様となっています　（最長時で約2.5秒となります）。
- 「短め」の設定で正常に始動する車両に対して「長め」の設定を行なうと、エンジンが掛かった後もセルモーターが回ることになり、その時セルモーターから「カリカリ･･」と異音が発生する原因となります。
- 純正イモビライザー装着車は、車両構造上セルモーターを長めに回す必要があります。純正イモビライザー装着車でエンジン始動が行なわれない場合は「長め」の設定をお試しください。

設定方法

アンテナユニット裏の設定スイッチNo.2「セル回転時間」を切り替えることで設定が行なえます。

スイッチの位置	セル回転時間
ON	長め（約1.5秒）
OFF	短め（約1秒） （標準設定）

※設定スイッチの切替は、つまようじ等先端の柔らかいもので行なってください。
㊀ドライバーなど先端が金属のものを使用すると破損する原因となります

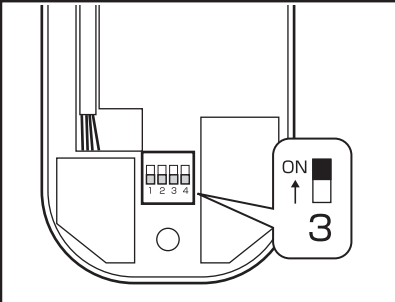
エンジンスターターの自動停止時間を設定する

SQ7500のみ

解　説

本品は、リモコンでエンジンを始動した後そのままにしておくと、設定した時間でエンジンが自動的に停止するようになっています。
寒冷地などで、15分では暖機運転が完了しない場合は30分に設定することができます。

禁止

いずれの設定の場合も、必要以上の無駄なアイドリングは避けてください。
排気ガスなどにより環境汚染の原因となります。

参考

すでに本品によりエンジンが始動している状態からエンジンスタートの操作を行なう（→P14）と、再び本ページで設定している自動停止時間までアイドリング時間を延長します（アイドリング延長機能）。

設定方法

アンテナユニットの設定スイッチNo.3「アイドリング時間」を切り替えることで設定が行なえます。

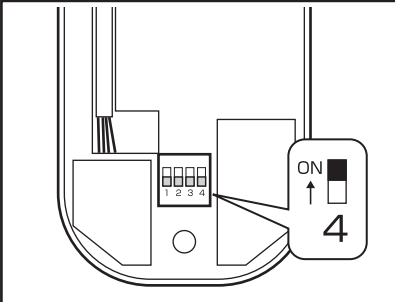
スイッチの位置	アイドリング時間
ON	30 分
OFF	15 分 （標準設定）

※設定スイッチの切替は、つまようじ等先端の柔らかいもので行なってください。
㊀ドライバーなど先端が金属のものを使用すると破損する原因となります

ターボタイマー機能の設定 SQ7500のみ

参考 この機能はターボタイマー機能を使用する場合のみ設定してください。

解　説

本品は、走行時間に応じて自動的にターボタイマーの作動時間（アフターアイドリング時間）が変化します。

アフターアイドリング時間の目安

走行時間	アフターアイドリング時間	アンテナユニットの音
〜　30分	1分	ピッ　ピッ　ピッ……
30分　〜　60分	2分	ピピッ　ピピッ　ピピッ……
60分　〜	3分	ピピピッ　ピピピッ……

※アンテナユニットの音はアフターアイドリングの残り時間によって変化します。
これにより、おおよそのアフターアイドリング残時間を知ることができます。

設定方法

アンテナユニット裏の設定スイッチNo.4「ターボタイマー」を切り替えることで設定が行なえます。

スイッチの位置	ターボタイマー
ON	使用する
OFF	使用しない（標準設定）

※設定スイッチの切替は、つまようじ等先端の柔らかいもので行なってください。
㊀ドライバーなど先端が金属のものを使用すると破損する原因となります

関連項目

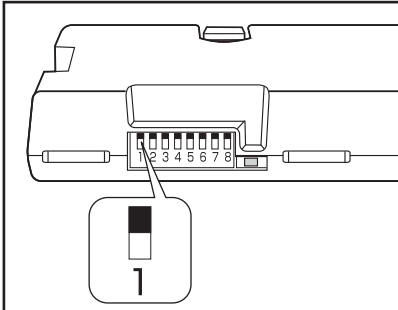
ターボタイマーを使用する（→P23）

サイドブレーキ検出の設定

SQ7500のみ

※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解　説

本品は、サイドブレーキ（または足踏み式のパーキングブレーキ）が掛かっていない時はリモコンからエンジンを始動できないようにすることができます。
これは本品の安全機能の1つですが、寒冷地などサイドブレーキを掛けずに駐車することがある場合は標準設定のままご使用ください。
また、サイドブレーキ検出を行う（「キャンセルしない」に設定する）場合は必ずサイドブレーキ検出コードを車両に配線する必要があります。
車両配線に関しては、別紙の取付マニュアルをご覧ください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.1「サイドブレーキ検出キャンセル」を切り替えることで設定が行なえます。

1 2 3 4 5 6 7 8

1

スイッチの位置	サイドブレーキ検出キャンセル
OFF（上側）	キャンセルしない
ON（下側）	キャンセルする（標準設定）

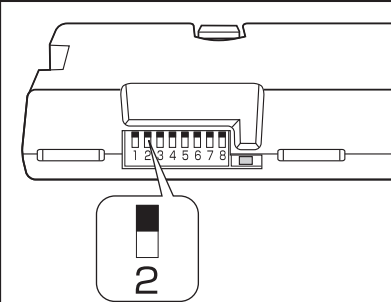
エンジンスターター関連の設定

P/N検出・フットブレーキ検出の設定 SQ7500のみ

※この設定は通常、取付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解　説

本品の安全機能にはフットブレーキ検出機能とP/N検出機能がありますが、使用にあたっては、これらの安全機能のうちどちらかを選択していただく必要があります。
これらはエンジンスターター機能およびターボタイマー機能を安全に使っていただくための重要な設定ですので、取付け時に正しく設定が行なわれている必要があります。

参考

- フットブレーキ検出を行う場合は必ずフットブレーキ検出コードを車両に配線する必要があります。
  詳しくは、別紙の取付マニュアルを参照してください。
- P/N検出を行なう場合は併せてP/N検出時のST1/ST2切替（→P50）および P/N検出データの設定（→P51）を行なう必要があります。
- P/N検出は、車両によっては検出できない場合があります。その際はご面倒でもフットブレーキ検出を行なう必要があります。

注意

本品のP/N検出機能は、バッテリー交換等で本体の電源が断ち切られた場合にもデータを保持します。このためP/N検出データを設定した本体を他の車両に付け替える場合などは、一度本設定を「フットブレーキ検出」に切り替えてP/N検出データを消去した後、再度設定を行なってください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.2「フット/PN切替」を切り替えることで設定が行なえます。

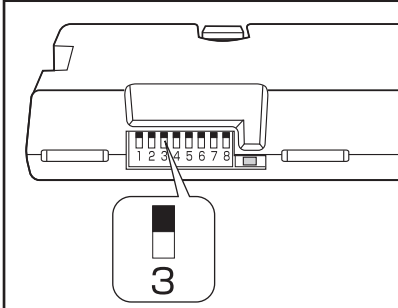
スイッチの位置	フット/PN切替
OFF（上側）	フットブレーキ検出 ※フットブレーキ検出に切替えると P/N検出データは、消失します。
ON（下側）	P/N検出 （標準設定）

関連項目

P/N検出データの設定（→P51）
P/N検出時のST1/ST2切替（→P50）

ホンダABS装着車に取付ける場合の設定 SQ7500のみ

※この設定は通常、取付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解　説

ABS（アンチロック・ブレーキ・システム）を純正装着しているホンダ車に本品を取付け、本品のリモコンでエンジンを始動した際にメーターパネル内の「ABS警告灯」が点灯したままになる場合のみこの設定を「ON」に切替えてください。

参考

- ホンダABS装着車に取付ける場合にこの設定を誤ると、エンジンスターターによる始動時にメーターパネル内のABS警告灯が点灯したままになる場合があります。
- ホンダABS装着車以外に取付ける場合にこの設定を誤ると、エンジンスターターによる始動が正常に行なわれない場合があります（セルは回るがエンジンが掛からないなど）。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.3「ホンダABS」を切り替えることで設定が行なえます。

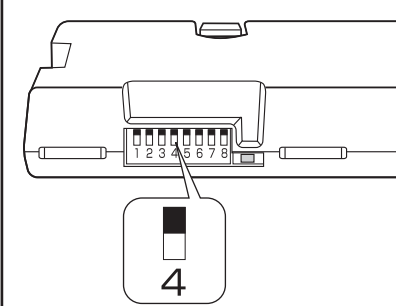
1 2 3 4 5 6 7 8

3

スイッチの位置	ホンダABS
OFF（上側）	非装着車 （標準設定）
ON（下側）	装 着 車

L端子配線を行なう場合の設定 SQ7500のみ

※この設定は通常、取付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解　説

本品は車両特性によりエンジンの始動判断が行なえない場合、L端子（→P57表下 参考）に配線を行なうことで正常な始動判断を行なうことができるようになります。
この設定は、L端子への配線を行なった場合のみ必要となります。
それ以外の場合は必ず標準設定のままご使用ください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.4「L端子配線」を切り替えることで設定が行なえます。

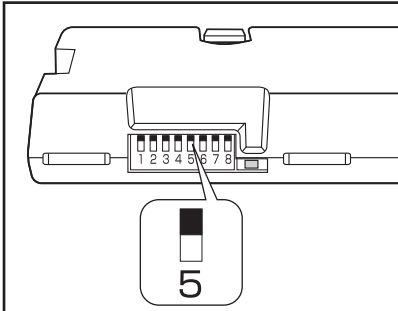
スイッチの位置	L端子配線
OFF（上側）	しない （標準設定）
ON（下側）	す　る

スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定

SQ7500のみ

※ドアロック配線を行なっていない場合も本機能はお使いいただけます。
※SQ7000は車種別専用ハーネスで取付ける事でスターターカット機能が使用できます（本設定は必要ありません）。

解説

本品は、万一の際に車両が乗り逃げされる事を防ぐため、本品のリモコンでセキュリティON（ドアをロック）している間には例え純正のキーを使用した場合でもセルモーターが回らないようにすることで、エンジンを掛ける動作を禁止できます。
リモコンでセキュリティOFF（ドアをアンロック）すると通常のエンジン始動が行なえるようになります。
また、本機能の作動中でも、本品のリモコンからエンジンを掛けることは可能です。SQ7500のみ
尚、この機能は純正イモビライザー装着車でも同様にお使いいただけます。

⚠注意

- この設定を行なった場合、セキュリティON中にリモコンが電池切れになり、リモコンからセキュリティOFFができない状況ではキーによるエンジン始動ができなくなることをご了承ください。その場合は、リモコンを充電してからセキュリティOFFの操作をして本機能を解除するか、P25の手順に従ってセキュリティを強制解除する必要があります。
- リモコンの電池容量が不足してくると、電池残量警告マークが点灯します。このような状態になったら、早めに充電を行なっておいてください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.5「スターターカット」を切り替えることで設定が行なえます。

1 2 3 4 5 6 7 8

5

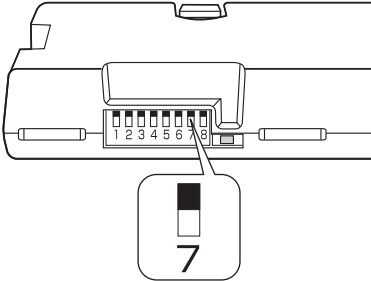
スイッチの位置	スターターカット
OFF（上側）	使用しない （標準設定）
ON（下側）	使用する

強制解除の方法

スターターカット中のリモコン紛失などの場合は、P25の手順に従ってセキュリティ機能を強制解除してください。

OP端子出力の設定 SQ7500のみ

※この設定は通常、取付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解 説

本品のオプション端子に、以下のアダプターを接続する場合は必ず設定を「B」にしてください。

- ・TE413（イモビ付車対応アダプター2）
- ・TE417（純正セキュリティ対応アダプター1）
- ・TE420（キー検出制御アダプター）
- ・TE422（イモビ付車対応アダプター5）
- ・レジェンド用DPSアダプター　（2006年3月現在）

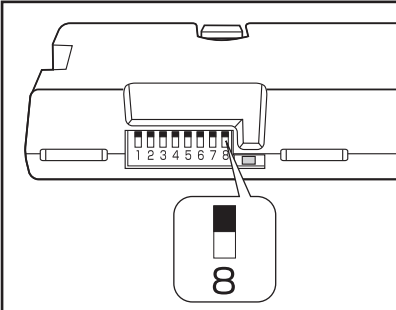
設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.7「OP端子出力」を切り替えることで設定が行なえます。

スイッチの位置	OP端子出力
OFF（上側）	A（標準設定）
ON（下側）	B（・TE413/417/420/422 ・レジェンド用DPSアダプター）

グロータイムの設定 SQ7500のみ

※この設定は通常、取付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解説

この設定により、アンテナユニットがエンジンスターターの始動信号を受信してから、セルを回すまでの時間を変更することができます。
グロータイムを短く設定すると、リモコン操作からエンジン始動までの時間を短くすることができますが、車両によっては正常なエンジン始動ができなくなります。
（特にディーゼル車の場合は冬期など寒冷時に掛からなくなる恐れがあります。通常は標準設定のままお使いください。）

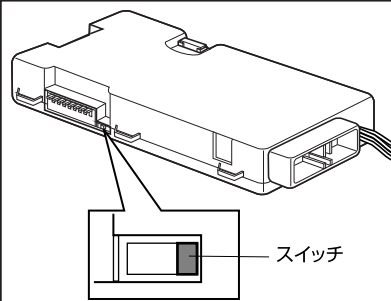
設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.8「グロータイム」を切り替えることで設定が行なえます。

	スイッチの位置	グロータイム
1 2 3 4 5 6 7 8 8	OFF（上側）	8秒 （標準設定）
	ON（下側）	5秒

エンジンスターター関連の設定

P/N検出時のST1/ST2切替

SQ7500のみ

※本体設定がP/N検出モードになっている場合（→P44）のみ設定が可能です。

解説

この設定は、P/N検出（→P44）を使用する場合、正常なシフトポジション検出ができるように行なうものです。

設定方法

メインユニット設定スイッチの横にあるスライドスイッチを切り替えることで設定が行なえます。
正常にP/N検出が行なえる位置でご使用ください。

スイッチの位置	P/N検出モード
右　側	ST1（標準設定）
左　側	ST2

関連事項

P/N検出・フットブレーキ検出の設定（→P44）
P/N検出データの設定（→P51）

P/N検出データの設定 SQ7500のみ

※本体設定がP/N検出モードになっている場合（→P44）のみ設定が可能です。

解説

以下のような場合には、本頁記載の手順に従ってP/N検出データの設定が必要です。
▼はじめて本品を取付けた時
▼本品を別の車両に付け替えた時（下記 ⚠注意 を参照してください。）

設定方法

※設定は車に乗り込んで行ないます。

⚠注意 本品のP/N検出機能は、バッテリー交換等で本体の電源が断ち切られた場合にもデータを保持します。このためP/N検出データを設定した本体を他の車両に付け替える場合などは、一度本設定を「フットブレーキ検出」に切り替えてP/N検出データを消去した後、再度設定を行なってください。

記号の見方

▬	長い音（ピー）
●	短い音（ピッ）

① セレクトレバーを「P」にしてキーを抜く

② リモコンでエンジンスタート操作をする

→ エンジンが掛かる場合：P/N設定済みあるいはフット接続済みです。（このままお使いください）

③ アンテナユニットから「ピー・ピー・ピー・ピー」×2回鳴る
▬ ▬ ▬ ▬ ×2
※他の音が出る場合はP57参照

④ 20秒以内にキーをON（メーターパネルが点灯する位置）にする

→ (NG) アンテナユニットから「ピ・ピ・ピ・ピー」×2回鳴る
● ● ● ▬ ×2
↓
車種別専用ハーネス品番および車種別専用ハーネス取付状態を確認してください。
※20秒以内にキーをONに出来なかった場合は、もう一度①から設定を行います。

(OK) ※OK・NG いずれかの音がするまでそのまま待機

⑤ アンテナユニットから「ピー」と1回鳴る
▬ ×1

⑥ 20秒以内にブレーキを踏みながらセレクトレバーを「R」にする

→ (NG) アンテナユニットから「ピ・ピ・ピ・ピー」×2回鳴る
● ● ● ▬ ×2
↓
P/N検出モードを切り替えて（→P50）再度設定を行ないます。
※20秒以内にセレクトレバーを「R」に出来なかった場合は、もう一度①から設定を行います。
↓
P/N検出モードを切り替えても設定できない場合
↓
P/N検出の設定ができない車です。フットブレーキ検出コードの配線を行ない、メインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）を「フット」（OFF側）に切り替えてください。

(OK) ※OK・NG いずれかの音がするまでそのまま待機

⑦ アンテナユニットから「ピー」と1回鳴る
▬ ×1

設定完了

関連事項

P/N検出・フットブレーキ検出の設定（→P44）
P/N検出時のST1/ST2切替（→P50）

取付後のメンテナンスなど

この項では、消耗品パーツの交換や故障と思われる際のトラブルシューティングなど、
本品を長くご愛用いただくために必要な情報を解説しています。

ページ

リモコンIDの登録・通信周波数切替の方法

※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

⚠注意 あらかじめ使用する全てのリモコンをご用意ください。

解　説

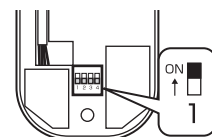
本品は別売のスペアリモコン（品番:SQ114）及びワイヤレスランプセンサー2（品番:SQ208）を、標準装備のリモコンを含んで合計最大5台まで使用することができます。また、混信・妨害電波などにより通信が安定しない場合には、本項の操作を行なうことで通信周波数チャンネルを任意に切り替えることができるため、本品をより安定した電波環境で使用することができます。

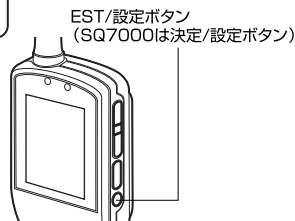
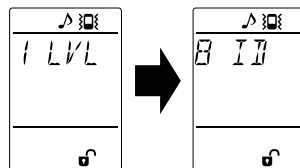
操作方法

※セキュリティをOFFにしてエンジンが停止した状態で操作してください。
※設定状態によって表示内容は異なります。
※この操作は5分以内に完了するようにしてください。

① セキュリティがOFFである事を確認してから、アンテナユニット裏の設定スイッチNo.1「ID書込」をONにします。
（アンテナユニットのLEDが点灯します。）

ON ↑ 1

アンテナユニット裏面

EST/設定ボタン
（SQ7000は決定/設定ボタン）

② リモコンの液晶画面が時計表示の時に、『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を3秒以上押し続けます。

③ リモコンに右図のような表示が行なわれたら、『OFF/電源』ボタンを4回押してID登録モードに切り替えます。
※『OFF/電源』ボタンを押し過ぎた時は、『ON/🔇』ボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。

④ 『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押すと、リモコンの画面に、ID Ent という文字が点滅し、本体との通信が行なわれます。

⑤ 次のような画面に切り替わり、現在の通信周波数チャンネル（1～6）が表示されますので、『ON/🔇』ボタンまたは『OFF／電源』ボタンを押して、希望する周波数に合わせ『EST/設定』ボタン（SQ7000は決定/設定ボタン）を押します。

参考 通常は変更の必要はありません。

⑥ 登録が完了するとアンテナユニットのLEDが約3秒間消灯し再び点灯します。

⑦ 別売のスペアリモコン（SQ114）を追加する場合は、続けてスペアリモコンのOFFボタンを押します。
※ワイヤレスランプセンサー2（SQ208）を追加する場合は、ランプセンサーのID送信ボタンを押します。

⑧ 登録が完了するとアンテナユニットのLEDが約3秒間消灯し再び点灯します。

⑨ SQ114及びSQ208を複数台使用する場合は⑦ー⑧の操作を繰り返してください。

⑩ アンテナユニット裏の設定スイッチNo.1「ID書込」をOFFにします。

リモコンの電池交換について

解　説

本品付属のリチウムイオン電池（品番:SQ109）は、充放電を繰り返すごとに使用できる時間が短くなるため、定期的な交換が必要です（約2年毎の交換をおすすめします）。

注意 本品は専用の充電池以外は使用できません。

参考 交換用電池（品番:SQ109）はカー用品専門店などでお買い求めください。

交換方法

※小さいネジを使用しています。電池交換の際はネジの紛失にご注意ください。

① 『OFF/電源』ボタンを3秒以上押し、リモコンの電源をOFFにします。

OFF/電源ボタン

② 付属の精密ドライバーでリモコン裏の電池ブタのネジをゆるめてから電池ブタを外します。

精密ドライバー
ネジ
電池ブタ

③ 古い電池のコネクタを抜いて取り出します。

電池

④ 新しい電池を図のように入れます。

電池（ラベルが裏向きになります）

注意 コネクタの向きに注意（コネクタ横の溝を合わせること）してください。

コネクタ

⑤ 電池ブタをはめ、付属の精密ドライバーで電池ブタのネジを締めます。

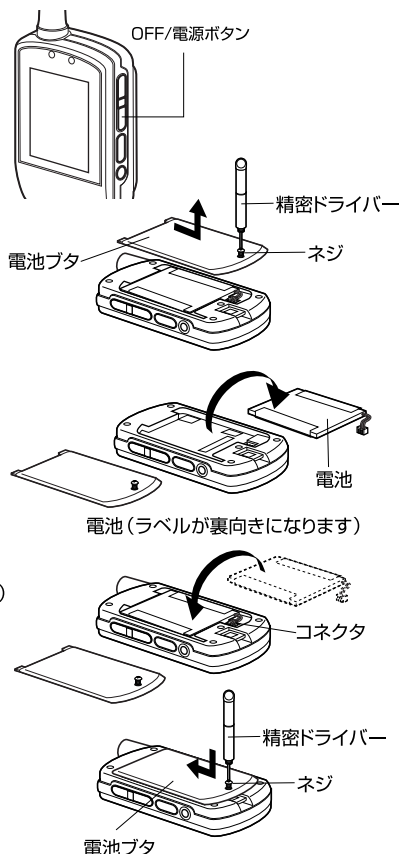
注意 強く締めすぎないように注意してください。

参考 電池を交換すると、リモコンの時計はリセットされます。

精密ドライバー
ネジ
電池ブタ

使い終わった電池は

最寄りのリサイクル協力店へ

詳細は、社団法人電池工業会小形二次電池再資源化推進センターのホームページをご参照ください。最寄りのリサイクル協力店が検索できます。　http://www.JBRC.com

取付後のメンテナンスなど

エンジンスターター機能が作動しない場合 SQ7500のみ

必ず下記の手順に従って確認作業を行なってください。

手順① リモコン電池の状態を確認する（→P14）

・リモコンの電池は正しく入っていますか?
・リモコンの電池が消耗していませんか?

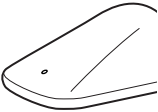
手順② 取付車種および取付ハーネス品番などを確認する

・取付車種が本品の取付不可車種になっていませんか?（店頭の車種別ハーネス適合表等で確認してください。）
・ハーネスの品番は合っていますか?（店頭の車種別ハーネス適合表等で確認してください。）
・車種別専用ハーネスのアースコード（黒）の接続は正常ですか?ゆるみ等はありませんか?

手順③ キーでエンジンがかかるかどうか確認する

（※）あらかじめP17の「セキュリティをOFFにする(ドアをアンロックする)」を参照の上、スターターカット機能をOFFにしてください。
スターターカット機能（→P47）がONになっているとキーでのエンジン始動は行なえません。

キーでもエンジンがかからない場合

・車種別専用ハーネスが正しく接続されているかどうか確認してください。

キーならばエンジンがかかる場合

・純正イモビライザー装着車の場合は、イモビ付車対応アダプターの配線・ループアンテナの取り付け位置・ケース内のキーの固定位置などを調整してください。
・メインユニットのヒューズが切れていないかどうか確認してください。
・メインユニットの設定スイッチNo.3「ホンダABS」の設定を確認してください。

手順④ 通常待機時の防犯LEDの発光状態を確認する

アンテナユニットにある防犯LEDの発光状態を確認します。
確認の際、直射日光の当たる場所など明るいところでは防犯LEDの発光状態が目視しにくいことがあります。そのような場合はアンテナユニットの周囲を手で覆うなど、防犯LEDの点灯状態が見やすいようにして確認してください。

	LEDの状態	原因・対処方法
	ゆっくり点滅を繰り返している場合	通常の受信待機中です。 手順⑤に進んでください
	ランプが消えたままになっている	エンジンキーがONの位置になっている場合は、エンジンキーを抜いてください。キーが抜いてあるにもかかわらず、アンテナユニットのLEDが点滅しない場合、本品のアースコードの接続場所が適切でない可能性がありますので、アースコードの接続場所を変更してください。また、アンテナユニットのコネクターがメインユニットに正しく接続されているか確認してください。
	ずっと点灯し続ける	ID書き込みモードになっています。 アンテナユニット裏の設定スイッチNo.1がONになっている場合はOFFに切り替えてください。

エンジンスターター機能が作動しない場合 SQ7500のみ

手順 ⑤ リモコンでエンジンスタートの操作を行い、リモコンの液晶ディスプレイおよびアンテナユニットのLEDの状態を確認する

本品にはエンジンの始動ができない原因を自己診断して、リモコンの液晶ディスプレイにエラーNo.を表示し、さらにアンテナユニットのLEDおよびブザー音によって知らせる機能があります。

操作方法

リモコンでエンジンスタートの操作をしてください。（→P18）
その時リモコンの液晶ディスプレイに表示される内容とアンテナユニットの防犯LEDおよびブザーの状態を確認してください。

エラー表示一覧表

● ＝短いブザー音およびＬＥＤの点灯　　▬ ＝長いブザー音およびＬＥＤの点灯

リモコンの表示	ブザー音およびLEDの状態	原因・対処方法
Err00	●●●●　●●●●	◎ボンネット検出エラー ボンネットオープンセンサー（オプション）接続時、ボンネットが開いているとエンジンを掛けることができません。 ボンネットを正しく閉めてから再度操作してください。
Err01	●●●▬　●●●▬	◎P/N検出エラー 1 シフトポジションが「P」または「N」以外の位置になっている可能性があります。エンジンを掛けることができる位置にシフトポジションを切替えてください。 シフトポジションが「P」または「N」の位置であるにも関わらずこのエラーが出る場合は、メインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）をOFFにし、5秒程度待ってから再びONに切替え、P45を参考の上、再びP/N検出データの設定を行なってください。
Err02	●●▬●　●●▬●	◎フットブレーキ検出エラー フットブレーキ検出コード（車種別専用ハーネスの細い紫コード）の配線が誤っている可能性があります。 フットブレーキ検出を使用せずにP/N検出を使用する場合は、必ずメインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）を「P/N」（ON側）に切り替えてください。
Err03	●●▬▬　●●▬▬	◎サイドブレーキ検出エラー サイドブレーキ検出を使用しない場合は、メインユニットの設定スイッチNo.1（サイドブレーキ検出キャンセル）が「キャンセルする」（ON側）になっているかどうか確認してください。 サイドブレーキ検出を使用する場合は、サイドブレーキ検出コード（車種別専用ハーネス付属の細い橙コード）の配線が誤っている可能性があります。サイドブレーキ検出コードの配線を確認してください。
Err04	●▬●●　●▬●●	◎L端子エラー L端子の配線が誤っている可能性があります。 配線を確認してください。（下記参考参照）

P58へつづく ↓

参考 L端子コードとは、エンジンルーム内のオルタネータから出ているコードのうち、① バッテリーへ行く太いコード以外で、② イグニッションON時は約+2V以下の電圧で、③ エンジン始動後+12Vが出るコードです。

エンジンスターター機能が作動しない場合

リモコンの表示	ブザー音およびLEDの状態	原因・対処方法
Err 05		◎バッテリー容量エラー 車両バッテリーの電圧が低く、セルモーターを回せません。車両のバッテリーを充電してください。 （バッテリー上がりを未然に防ぐための機能です）
Err 06		◎始動判断エラー1（始動判断できない） セルは回るが、エンジンがスタートしない場合 セルモーターの作動時間が短いことが考えられます。アンテナユニットの設定スイッチNo.2（セル回転時間）を「長め」（ON側）に切り替えてください。また、イモビ付車対応アダプターを使用している場合は、アダプターが正常に取り付けられているか確認してください。 エンジン始動後すぐに止まってしまう場合 車両特性によりエンジンの始動判断が行なえません。始動判断が正常に行われない場合は、車両オルタネータのL端子コードに専用ハーネス付属のL端子コード（茶色の細い線）を接続した上で、L端子配線の設定（→P46）を行なってください。（下記参考参照）
Err 07		◎イグニッションエラー 車両のイグニッションがキーによってONになっています。キーを抜いてください。
Err 08		◎スリープモード 14日以上エンジンをスタートさせていない場合は、スリープモードに入るためエンジンスタートができません。 キーで一度エンジンを掛けてスリープモードを解除してください。
Err 15		◎P/N検出エラー 2 P/N検出が設定されていません。 P51を参照の上、P/N検出の設定を行なってください。P/N検出が正常に行なえない車両の場合は、メインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）を「フット」（OFF側）に切り替えて、フットブレーキコード（車種別専用ハーネスの細い紫コード）を配線してください。（→別紙取付マニュアル参照）
Err 90		◎送信エラー リモコンから電波を送信できませんでした。くわしくはP16下に記載されている 参考 を参照してください。改善しない場合はP54をご覧になり、周波数変更をお試しください。
Err 99		◎通信エラー リモコンとアンテナユニット間の通信が成立しませんでした。 くわしくは、P16下に記載されている 参考 を参照してください。
―	エンジンが始動しないのに点灯したままの状態が続く場合	◎始動判断エラー2（誤った始動判断を行なう） 車両特性により、誤った始動判断を行なっています。メインユニットの設定スイッチNo.3（ホンダABS）の設定を確認してください。それでも始動判断が正常に行われない場合は、車両オルタネータのL端子コードに専用ハーネス付属のL端子コード（茶色の細い線）を接続した上で、L端子配線の設定（→P46）を行なってください。 （下記参考参照）

参考 L端子コードとは、エンジンルーム内のオルタネータから出ているコードのうち、①バッテリーへ行く太いコード以外で、②イグニッションON時は約+2V以下の電圧で、③エンジン始動後+12Vが出るコードです。

故障かな？と思ったら

	症　状	解　説	参照ページ
リモコンについて	リモコンが操作できない	リモコンの電池が切れていませんか? リモコンの充電を行なうか、電池を交換してから操作してください。	P14・P55
		リモコンのキー操作ロック機能が働いていませんか? キー操作ロック機能を解除してください。	P22
	リモコンの充電ができない	リモコンの電池は正しく入っていますか? 入っていない場合はリモコンに電池を入れてください。	P55
	通信完了まで時間がかかる	本品は、リモコン操作（電波送信）を行なった後に車両側アンテナユニットからのアンサーバック信号が受信できなかった場合、自動的に再送信を試みます。この場合、通信完了までの時間が通常より長く掛かりますが異常ではありません。	–
	車の近くにいるのにリモコンに通信インジケータ（ ）が表示されない	本品は、一定間隔毎に通信状態を自動的に確認して、表示が更新されるようになっています。 そのため、実際は通信圏内にあっても通信インジケータが表示されていなかったり、実際は通信圏外でも通信インジケータが表示されている事があります。 この場合、2分程度経過すると正常な表示に戻ります。また、周囲の電波状況が悪い場合にも通信インジケータが表示されないことがありますが、これは異常ではありません。	–
		電波状態の表示は、セキュリティONの時のみ行ないます。 セキュリティOFFの場合は、表示を行ないません。	–
	近距離にも関わらず、エラー表示が出て通信できない（Err 99）	本体のヒューズが切れていませんか? 配線を再確認してから市販の新しいヒューズに交換してください。	–
		本体がID登録モードになっている可能性があります。ID登録インジケータが消灯していることを確認してください。	P54
		まれに操作ができなくなるなど通信が不安定な場合は、通信周波数を変更すると症状が改善する場合があります。	P54
		何らかの理由で、本体に記憶されているリモコンIDが消失している可能性があります。IDの書き込み方法に従ってリモコンIDを書き込んでください。	P54
	本体が反応していないのに突然リモコンに通報が行なわれた	通信圏外で異常が発生していた場合は、リモコンが通信圏内に入った時点で自動的に履歴を受信するようになっています。（このような場合はチェック機能を使用して、いつ異常が発生していたのか確認してください。）	P26～28
	充電後、電池残量警告マークがすぐ点灯する	電池寿命の可能性があります。新しい電池と交換してください。	P55
		電池の特性上、使用する場所の温度が低い場合は電池残量警告マークが点灯しやすくなります。	–
	履歴表示の時刻が表示されない	24時間以上前の履歴表示は、時刻を表示することができません。	P20～21
	履歴表示の時刻がおかしい	リモコンの時計は合っていますか?時計が合っていないと履歴時間もずれて表示されます。時計を合わせてください。	P20～21 P36
	リモコンでエンジンを止めることができない SQ7500のみ	キーでエンジンを掛けている時は、リモコンでのエンジン停止は行なえません。	P19
	リモコン操作時、液晶ディスプレイが表示されるまでに時間がかかる。	液晶の特性上、低温時の表示には多少時間がかかる場合があります。リモコン内部の温度が上昇すれば表示は元に戻ります。	–

故障かな？と思ったら

	症　　状	解　　説	参照ページ
リモコンについて	液晶表示が暗くなったり不安定な状態になる。	リモコンの電池が消耗していると思われます。 リモコンを充電してください。 また、低温になる場所にリモコンを置いておくと、一時的に電池電圧が低下してリモコンの表示が薄くなる場合がありますが、常温になれば元に戻ります。	P55

	症　　状	解　　説	参照ページ
セキュリティ機能について	車を叩いてもショックセンサーが反応しない	2段階ショックセンサーの感度調整が弱すぎる恐れがあります。 適切な感度になるように感度を強めてください。	P31
		アンテナユニットはしっかり固定されていますか?固定されていない場合は、車両内装部分にしっかりと取付けてください。	–
		セキュリティレベルの切替は適切ですか? セキュリティレベルをNORMALなどに切り替えてください。	P30
		エンジンスターター機能およびターボタイマー機能によるアイドリング中は、誤作動を防ぐため衝撃センサーが反応しません。 SQ7500のみ	P28
		イグニッションがONになっていませんか?ショックセンサーはイグニッションOFFの状態でしか作動しません。	P28
		ディレイタイム（セキュリティONからセンサーが検出を開始するまでの時間）の設定値を確認してください。	P35
		微衝撃センサーは、連続して反応すると内蔵のマイコンが誤動作と判断し、一時的に検出をキャンセルします。	P26
	2段階ショックセンサーが反応しない時がある	2段階ショックセンサーに連続して衝撃を加えた場合、1回反応してから約3.5秒間は次の警報を行なわないようになっていますが異常ではありません。	–
	ドアを開けてもサイレンが鳴らない	残光機能付きの車両の場合、セキュリティをONにしてからルームランプやキーリング照明などが消えてからでなければ、ドアセンサーが働きません（残光対応機能）。	–
	何も異常が無いのに警報が鳴る	2段階ショックセンサーの感度調整が強すぎる恐れがあります。 適切な感度になるように感度を弱めてください。	P31
		温度変化などにより車両の内外装パーツ（特に樹脂部品の勘合部）が膨張・収縮して2段階ショックセンサーが反応している可能性があります。	–
		アンテナユニットの取付状態（ユニット及びコードがしっかり固定しているか）を確認してください。正しく固定してない場合は正常なセンシングが行なえません。	–
		車上荒らし・車両窃盗犯がセキュリティを解除させる目的で、特に夜間、故意に車両に衝撃を与えて様子を伺う事例が報告されていますのでご注意ください。 ※ご自分で犯人を捕まえようとする行為は大変危険です。このような場合は、警察に相談されることを強くおすすめします。	–
	スターターカット機能が作動しない	出荷時の設定状態では、スターターカット機能の設定が行なわれていません。 スターターカット機能を設定してください。	P47
	リモコンへの通報は行なわれるが、大音量サイレンが鳴らない	セキュリティレベルが" SILENT" に設定されていませんか?	P30

故障かな？と思ったら

	症　状	解　説	参照ページ
エンジンスターター・ターボタイマー機能について	エンジンスターターが作動しない SQ7500のみ	メインユニットのヒューズが切れていませんか？ 配線を再確認してから新しいヒューズ（別売）に交換してください。	–
		P/N検出データが消失していませんか？ 再度データを書き込んでください。	P51
		その他の原因の場合は「エンジンスターター機能が作動しない場合」を参照の上、確認作業を行なってください。	P56〜P58
	ターボタイマーが作動しない SQ7500のみ	ターボタイマー機能の設定が正しく行なわれていますか？	P42
	エンジンスターター・ターボタイマーのアイドリング中、純正キーレスエントリーが作動しない SQ7500のみ	ほとんどの純正キーレスエントリー装着車は、車両の仕様上エンジン始動中に純正キーレスエントリーが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能およびターボタイマー機能によるアイドリング中は、本品のドアアンロック機能を使用するか、キーを使用してドアを開ける必要があります。	–

	症　状	解　説	参照ページ
その他の症状	通信距離が短い	リモコンの電池が消耗していませんか？ リモコンを充電してください。	P55
		リモコンと車の間に電波を遮断する障害物が多いことが考えられます。特に金属物質は電波を通しにくく、通信距離を著しく縮めますので使用の際はご注意ください。	–
		アンテナユニットをダッシュボード以外の場所（特にインダッシュ等）に取付けている場合は通信距離は短くなります。	–
		アンテナユニットの近くに金属があると通信距離が短くなる場合があります。ピラー等の金属部から5cm以上離して取付けてください。	–
	ドアロック機能が使用できない	ドアロック機能はドアロック適合車種のみ使用可能です。また、ドアロック機能を使用するには別途ドアロック配線が必要となりますのでご注意ください。	–
		ドアが開いているとドアロックモーターが作動しない車種がありますので、必ず全てのドアを閉めてからドアロックの操作を行なってください。	P16
	キーによるエンジン始動ができない	本品の「スターターカット機能」が働いていませんか？ ドアのアンロック操作を行なってスターターカット機能をOFFにしてから再度始動を試みてください。	P17・P47
		取付ハーネスが緩んでいたり、本品のメインユニットが接続されていない場合、キーによるエンジン始動ができなくなります。 接続が確実に行なわれているかどうか確認してください。	–
	ドアをアンロックすると車両の純正ホーンが鳴る	純正のセキュリティアラームなどが装備されている車両の場合、純正リモコンドアロックでドアをロックした後、本品でドアアンロックを行なうと、純正セキュリティアラームが鳴る場合がありますが故障ではありません。 このような車両の場合、ロック操作とアンロック操作を同一のリモコンで行なう必要があります。	–
	1度のリモコン操作（セキュリティON・セキュリティOFFなど）で車両側が2度反応する	本品は、リモコン操作（電波送信）を行った後に車両側アンテナユニットからのアンサーバック信号が受信できなかった場合、自動的に再送信を試みます。この場合、1度のリモコン操作で車両側が2度反応しますが異常ではありません。	–
	その他、動作が不安定な場合	車種別専用ハーネスのアースコードが確実なアースポイントに接続されているか確認してください。	–

仕 様

技術基準	特定小電力無線局テレコントロール用無線設備
使用周波数	429MHz帯の10波のうち6波を使用（切替式）
通信方式	単信方式
送信出力	10mW
送信時間	40秒以内
送信休止時間	2秒以上

■リモコン

外形寸法	67.5x39x22（mm）アンテナ部除く
重量	約45g
使用電池	専用リチウムイオン電池3.7V （品番:SQ109）
電池寿命	約3年 （3日に1回充電の場合）
作動温度範囲	0℃ ～ +60℃
時計精度	月差±15秒

■メインユニット

外形寸法	66x139x27（mm） （突起部除く）
重量	約175g
電源電圧	DC12V
消費電流	約15mA（待機時） （スリープモード付）
作動温度範囲	−20℃ ～ +70℃

■アンテナユニット

外形寸法	69.5x42.5x30.0（mm）
重量	約50g
コード長	約1.5m
作動温度範囲	−20℃ ～ +70℃

■家庭用充電アダプター

入力	AC100V 50/60Hz
出力	DC6V 500mA ⊖-⊙-⊕
コード長	約1.8m

仕様